

リアホナ

豊かな精神を
開花させる、
2ページ
ブラジル、サンパウロ神殿への
17日間の旅、8ページ



リアホナ



表紙

写真/クレグ・ダイヤモンド、
スティーブ・バンダーソン、
ブライアン・K・ケリー。
写真の人物は記事に登場する
人物本人ではありません。
「内なる自己を強くする」2ページ参照



「フレンド」表紙

写真/スティーブ・バンダーソン。
写真の人物は記事に登場する人物本人
ではありません。「わたしたちは主に
ついてあかしする」2ページ参照。



8ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——内なる自己を強くする
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 12 神の愛 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 25 家庭訪問メッセージ
——すべての必要なものを用意しなさい
- 26 イエスの言葉——赦し
七十人会長会 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア
- 30 人知れず育つ種のとえ
地域幹部七十人 ウィルフレッド・R・ロベス
- 36 ゴスペル・クラシック
——3つのとえ 愚かな蜂、夜行特急、二つのランプ
ジェームズ・E・タルメージ
- 42 末日聖徒の声
イエス・キリストの特別な証人
アイリーン・コインブラ・デ・オリベイラ・クラウディオ
疑いの余地はなかった ギセッペ・マルチネンゴ
特別なテーブルクロス ファン・アルド・レオーネ
- 48 『リアホナ』2003年2月号の活用法

青少年

- 8 誕生日の神殿旅行 クリステン・ウィンミル・サウスウィック
- 18 モーリスにおまかせ ローラ・リブシー
- 22 質疑応答——友達に純潔の律法を理解できるように
助けるにはどうしたらよいでしょうか
- 33 ポスター——奴隷にならないで
- 34 モーニングコール アイザック・コフィ・モリソン
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声——わたしたちは主についてあかしする
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 4 分かち合いの時間——ふくいんがかいふくされました
ビッキー・F・マツモリ
- 6 ゆるしの小石 ジェーン・マックブライド・シューエート
- 9 しんでんカード
- 10 イエスのように——お母さんの手伝い
ビニー・健・村松・デ・オリベイラ
- 11 新約聖書ものがたり
——さいしょのせいさんしき；さいごのばんさんでのほかの教え
- 16 歌——信仰持って、主に従おう



18ページ参照

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュバンダー

顧問:J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト
実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュコト

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー, オース, スーザン・バレット, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ポーター・ガント, シャナ・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャクソン, キャリー・カステル, メルビン・リービット, メリン・ミンソン, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョナサン・H・スティーブンソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェッブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ポット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, プレストン・クリステンソン, シャリー・クック, ケリー・リン・C・ヘリン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ビーターソン, ランドール・J・ピクストン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド, ティアー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:ケイ・W・ブリッグス

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA Eメール:cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, イロコ語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, バンガシナ語, ハンガリー語, ヒリガイン語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語, ウラユ語。(発行頻度は言語により異なります。)

© 2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines February 2003, Japanese. 23982 300

For Readers in the United States and Canada:

February 2003 no. 2 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



パルマイラ神殿の奉献式

わたしは長年『リアホナ』(日本語版)の読者です。特にゴードン・B・ヒンクレー大管長のメッセージを味わっています。

2001年9月号の『リアホナ』で、預言者ジョセフ・スミスの家族について書かれた短い歴史を読みました。「回復の地」というタイトル、とても美しい話でした。中でも最も感動したのは、ニューヨーク州パルマイラ神殿の奉献式でささげられた祈りからの抜粋です。それは簡潔ながらも靈感に満ちた非常に力強い祈りでしたので、靈感の源について疑いを抱く余地はまったくありませんでした。わたしはその祈りを家族や専任宣教師とともに分かち合う恩恵にあずかったのです。

ブラジル・ナタールステーク,
リオブランコワード
メシヤス・カシミロ・バレンテ

平和と喜びの源

『リアホナ』(スペイン語版)は平和と喜びの源です。愛する預言者や使徒たちの靈感あふれる言葉を通して、これまでに教えや慰め、導き、望み、豊かな愛を受けられました。あるときはそれらのメッセージが特別にわたしのために与えられたように感じたり、またあるときは家族やそのほかの人たちのために与えられたように感じたりします。どこにアンダーラインを引いたらよいか、そして人々と分かち合える事柄について御霊が教えてくれるのです。

スペイン・アルコイ地方部,

アルコイ支部

マリア・カルメン・ホルガド・モラタル



「第一のものを第一に」

『リアホナ』(スペイン語版)総大会号を読む度に、困難な問題に立ち向かえるよう力づけてくれる話を見いだします。わたしは『リアホナ』2001年7月号に載った、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の「第一のものを第一に」という話が大変好きです。スコット長老が話された「理想の家族を築くために、地上にいる間、最善を尽くしてください」という言葉を自分自身に当てはめるよう努力しています。

わたしは家族の中でただ一人の末日聖徒です。スコット長老がおっしゃった「どのようなことがあっても途中で投げ出してはなりません」という言葉を読んで、わたしはあらゆる機会をとらえて自分の証を家族に伝えようと決心しました。

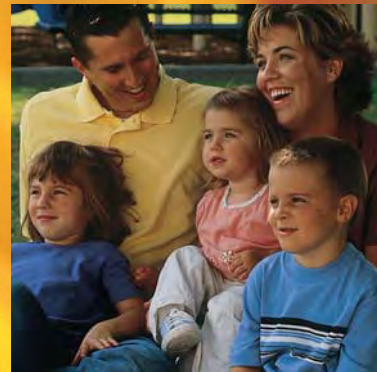
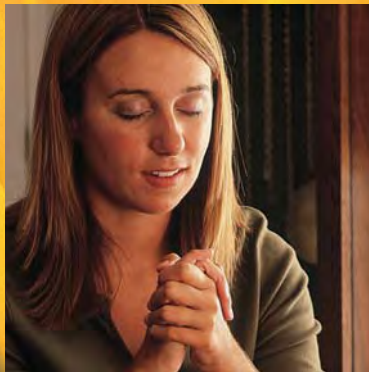
エルサルバドル・サンサルバドルステーク,
ロスプラネスワード
シルビア・マリソル・エメリタ・ガルシア・ボニート

ノーブー神殿を祝して

イリノイ州ノーブー神殿の再建おめでとうございます。わたしは貴教会の会員ではありません。キリストの共同体[Community of Christ](以前の復元末日聖徒イエス・キリスト教会)の祭司です。わたしはノーブー神殿について、ここ何年も読み続けている『リアホナ』(ドイツ語版)から知識を得ました。心からお祝いを申し上げます。天の御父があなたがた全員とともにおられますように。

ドイツ, ベルリン

ミヒヤエル・シェブケ



内なる自己 を強くする

第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

使徒パウロがエペソの聖徒たちのために望んだことは、主が「力をもって」彼らの「内なる人を強く」してくださるようにといいことでした(エペソ3:16)。同じように、今日の教会の基本プログラムは、内なる自己を強めるためにあります。わたしたちの目的はすべての人に安らぎと愛、福音のもたらず温もりを感じていただくことです。聖なる贖い主はこれを達成するための規範をわたしたちに与えて、こう命じられました。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。……自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22:37, 39)

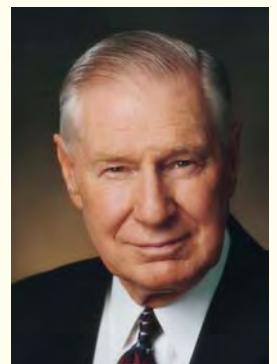
わたしたちは現代の預言者たちと使徒たちの次の声明に従うことによって、教会の会員たちの中に内なる道徳的な強さと人格を築こうとしています。「わたしたちの第一の目的は……独立心、勤勉、儉約、自尊心を〔確立することである。〕」¹「わたしたちの長期目標は、……教会員の人格を築き、人の心の奥深くに眠っている最も優れたものをすべて解き放ち、内に秘められた豊かな精神を開花結実させることである。これこそがこの教会の使命

であり、教会が存在する目的であり、理由である。」²

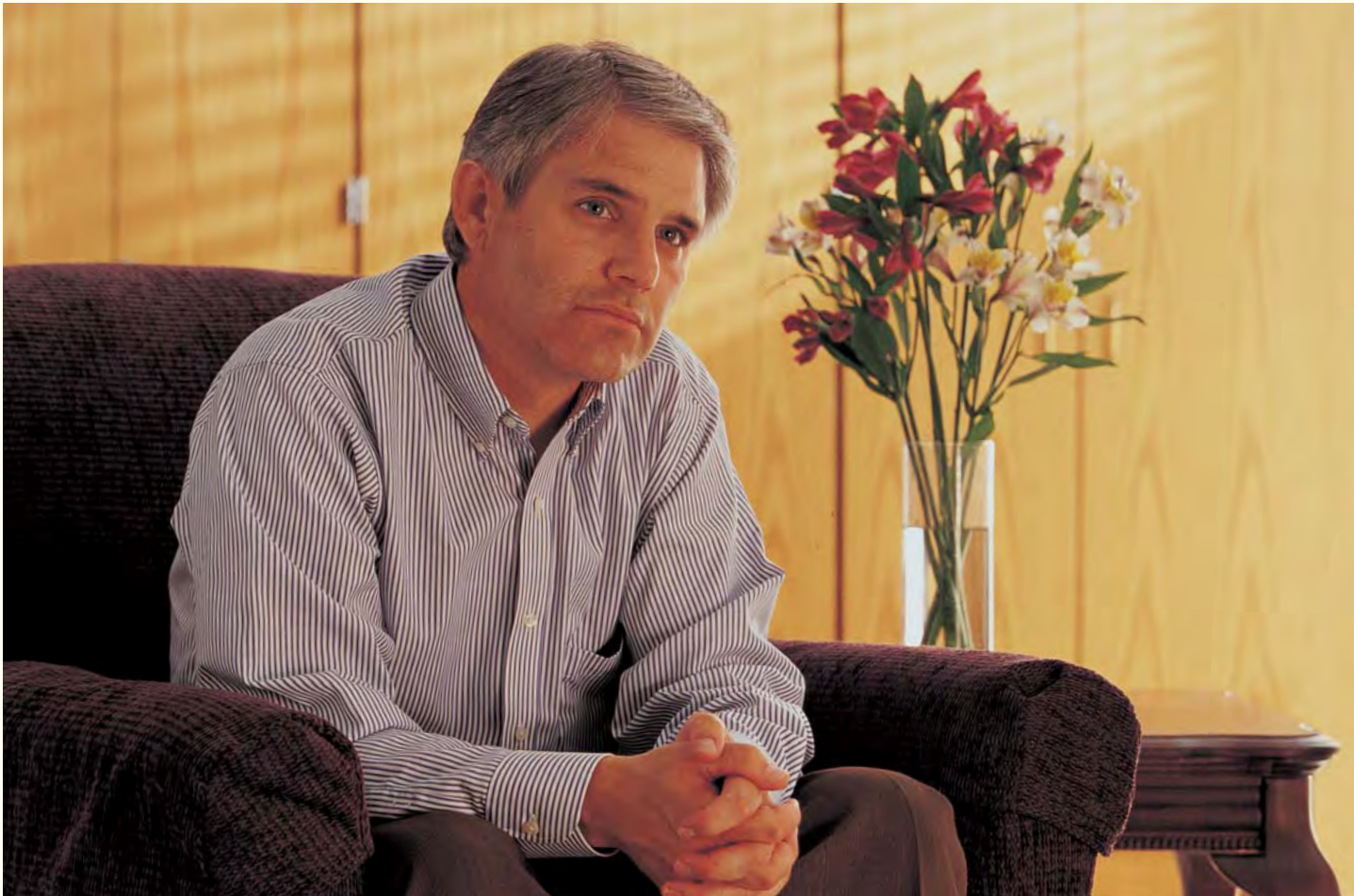
優先順位

この内なる強さを築くためには、地元の教会プログラムの計画と活動における優先順位を再調整する必要があるかもしれません。活動そのものよりも啓示された原則から導きを得るようにするならば、わたしたちは主の業をさらに確実に達成することができるようになるでしょう。

わたしたちが人々に手を差し伸べ、かわりを持ち、仕えるための計画を練るとき、巨大なパノラマスクリーン上にとどめておくべき数々の原則があります。それは神のすべての子どもたちに与えられた救い主の二つの偉大な戒め、すなわち神を愛して神に仕え、また同胞を愛して同胞に仕えることです。計画を組むに当たってはまず、活動を会員の霊的な必要に関連づけなければなりません。それには、会員が有意義な奉仕に携わったり、神権指導者の承認した適切な文化、教育、レクリエーション、社交の活動に自らの選択によって参加したりする機会を得ることが含まれます。行う活動の成功は必ずしもその規模では測られないということを心に留めておかなければなりません。むしろ、それが参加者の生活に



**教会の
基本プログラムは、
内なる自己を
強めるために
「内に秘められた
豊かな精神を開花結実
させること」にあります。**



及ぼした効果によって測る必要があります。プログラムよりも原則が重要であり、組織よりも人が大切であるということを理解しておかなければなりません。わたしたちは神の御霊によって内なる人を強めようとするとき、プログラムの奨励以上に原則と指針を教えるように努めるでしょう。

行動

効果は、内なる強さをいかに行動に移すかによって最もよく測ることができます。わたしたちの宗教が実際にどのようなものであるかは、わたしたちの生活そのものによって最もよく測ることができます。トーマス・カーライル（訳注——1795-1881年。スコットランドの随筆家、歴史家）はこう述べています。「確信は、それ自体が行動に変わるまでは価値のないものである。」³ わたしたちが神によって、また神の御霊によって強められることを、ハロルド・B・リー大管長（1899-1973年）は次のように述べています。教会の会員であることは、「自分の一の領収書や会員資格証明書、神殿推薦状を持った名前だけの会員であること以上の意味がなければなりません。真に改心した人とは、単にうわべだけでなく内面の弱点を改善するたゆまぬ努力をする人です。」⁴

教会の独身成人会員の多くは、現時点では彼らが望んでいる祝福をすべては得られないかもしれないということを、

**わたしたち全員の内にある霊的な存在の核心は
静寂かつ神聖な部分であって、そこからわたしたちは、
自分の生活において何が聖いかを感じ取ることができます。
その部分にはほかのだれも立ち入れません。
この部分があるので、わたしたちは……
神聖なものに近づけるのです。**

わたしたちは承知しています。しかしながら、二つの大切な戒めを守る能力についてはすべての聖徒と同等であり、それを守れば豊かに祝福され、強められます。彼らの霊性と主への献身の深さは、ほかの人々と同等の水準になれるのです。人に対する彼らの慈しみの深さは、ほかの人々が行う奉仕と同じように、有意義で報いのあるものとなります。確かに霊的な理解力と証は、それらを熱心に求めるすべての人に与えられるのです。

すべては霊的なものである

聖徒たちが霊的に強められると、内なる自己も強められます。ガラテヤ人への勧告にはこうあります。「すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。」（ガラテヤ6:8）様々な問題は霊的な解決策に頼ることによって解消します。より

高い律法は霊的な要素を含むからです。主はこう述べておられます。「わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはいまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。」(教義と聖約29:34)しかし、より高い律法に頼り、次いでそれらに従ったからといって、より高い権利を要求できるわけではありません。むしろ、これまでよりも高度な義務の遂行が求められるのです。

複雑で、チャレンジに富んだ、苦難の多い世界において自分の道を見いだすには、生まれながらに持っている才能や能力を超えた助けが必要であると感ずることがしばしばあります。預言者アルマは多くの事物に関する自分の理解がどこから来るかを明らかにしています。「これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。」(アルマ5:46)この世には現在、命の危険におびえながら日々の生活を送っている人が大勢います。しかし、内なる強さと安らぎを得ていれば、心配する必要はありません。救い主はこう言われました。「また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。」(マタイ10:28)

内なる自己の癒し

わたしたちすべてがしばしば必要としている癒しは、魂と霊の癒しです。これはわたしたちの生活に霊的なものを取り入れることによって可能になります。信仰箇条第7条で述べられているように、わたしたちはほかの霊的な賜物とともに癒しの賜物も信じています。わたしにとってこの賜物は、肉体と霊の両方を癒すものです。聖なる御霊は魂に平安を告げます。そしてこの霊的な慰めは、様々な形で求められ明らかにされる霊的な賜物を呼び求めることによって得られるのです。霊的な賜物は今日、教会の中に豊かに満ちみちていますが、それを獲得するにはへりくだり、適切に証を用いなければなりません。キリストは偉大な医者であり、「御自分の翼にある癒しによって」死者の中からよみがえられました(2ニーファイ25:13)。そして、慰め主は

癒しの仲介をされる御方です。

内なる人をもっと強める必要があれば、内なる自己を背きから清めなければなりません。悪とかかわりを持つことは自分が霊的に完全に死んでしまう原因となります。すべての背き、特に道徳的に汚れた行為に関する背きが清められるまで、わたしたちの生活における霊的な蛇口は開かれません。わたしが語っているのは性的な罪に限らず、あらゆる種類の悪行、すなわち虚偽、詐欺、盗み、ほかの人々を意識的にあるいは無分別に傷つける行為なども指します。

霊的な気持ち

わたしたち全員の内にある霊的な存在の核心は静寂かつ神聖な部分であって、そこからわたしたちは、自分の生活において何が聖いかを感じ取ることができます。その部分にはほかのだれも立ち入れません。この部分があるので、わたしたちはこの世にあってもこの世を離れても、神聖なものに近づけるのです。わたしたちの存在のこの核心部分は、自分自身のために、またわたしたちの創造主のために確保されています。わたしたちが祈るとき、その扉が開かれます。ここでわたしたちは黙想し、冥想できるのです。聖霊はわたしたちのこの特別な部分に宿ることがおできになります。特別な交わりの場所がここにあります。ここはわたしたちの霊的な電池の中枢部に当たります。しかし、罪が生活の中に忍び込んでくるのを許すとき、この偉大なエネルギーの源は涸れてしまいます。ローマ人は次のことを思い起こすように促されました。「肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。」(ローマ8:6)

わたしたちは内なる魂を強めようとすれば、物への執着心がなくなることに気づきます。ある賢人がこう述べています。「人の豊かさは感受性の豊かさによって測られる。人の貧しさは感受性の乏しさによる。」⁵

永遠の内なる自己

内なる魂はその中に蓄えられてきたすべて



聖なる御霊は魂に平安を告げます。そして、この霊的な慰めは、霊的な賜物を呼び求めることによって得られるのです。キリストは偉大な医者であり、「御自分の翼にある癒しによって」死者の中からよみがえられました。そして、慰め主は癒しの仲介をされる御方です。



神の御霊の力によって
内なる自己に強さが
与えられますように。
霊性は太陽の光に
似ているからです。
それは
清くないものを買く、
汚れのないものです。

のものとともに、この生涯を越えて存続するものです。ある思慮深い著述家はわたしたちにごう教えてください。「人の魂を除けば、地上のすべてのものは、過ぎ去る影のようにむなし。唯一朽ちることのないものは、わたしたちの中にあるのだ。」⁶

わたしたちは、内なる自己を強める人々は将来神の顔を仰ぐという知識を持っており、そこから慰めを得ています。主御自身がごう述べておられます。「まことに、主はこのように言う。自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう。」(教義と聖約93:1)エドナ・セイント・ビンセント・ミレイ(訳注—1892-1950年。アメリカの詩人)はこう語っています。

魂は天へのとばりを開け、
神の御顔の輝きを身に受けさせてくれる。⁷

内なる自己を強めるには、内なる存在の中に大いなる謙遜さがなければなりません。ギデオンは自分のことをごう述べています。「わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いものです。わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです。」(士師6:15)ギデオンはその後、ミデアン人の圧制からイスラエルを救うほどの英雄になりました。

旧約聖書にはこのように述べられています。「モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた。」(民数12:3)モーセはかつてこの世にいた最も偉大な預言者の一人であり、旧約聖書の中の5つの書を著しました。

霊的な太陽の光

わたし自身、内なる強さを求めるに当たって、大管長会やそのほかの中央幹部の模範に対して、また、わたしたちの周りで吹く不快な風や不安、疑い、あらゆる破壊行為に確固とした態度で立ち向かっている全世界のこの教会の善良な男女の模範に対して、敬意と称

賛と感謝を表します。わたしたちの周囲は耳に心地よい偽りの声や魅惑的な欺瞞の言葉で満ちています。これらの声や言葉は、すぐに得られる満足を唱道します。人生の中にあって長続きしない関係を持つことを勧め、悪いことをしても責任はないと教えようとするのです。しかし、善良な男女は神の御霊によってそれらの真偽を識別します。そして、固い信念に基づく正しい行いと聖い心をもって、義と希望と内なる平安が保たれるように見張る見張り台の上でラッパを吹く者となるのです。

人生の苦悩に満ちた道を雲のように覆う陰うつな霧は、神からのみ発せられる霊的な太陽の光により消えうせてしまいます。しかし、わたしたちが勤勉かつ謙遜に主の御霊を享受しようとしなにかぎり、この霊的な光はさしません。なぜなら、「主は心と進んで行う精神とを求め」られるからです(教義と聖約64:34)。

わたしたちは、たとえ人生の灼熱の炉の中に投げ込まれたとしても、いつも主の御霊を保つことができます。それを見た人々は、わたしたちには聖なる伴侶がいてくださることを必ず知るでしょう。ネブカデネザルもこのことを経験し、燃え盛る炉の中をのぞき見てこう言いました。「われわれはあの3人を縛って、火の中に投げ入れたではないか。……しかし、わたしの見るのに4人の者がなわめなしに、火の中を歩いているが、なんの害をも受けていない。その第4の者の様子は神の子のようだ。」(ダニエル3:24-25)

わたしたちの思いと行動の中に内なる霊的な平安と強さが現れますように。神にはすべてのことが可能であるという絶対的な信仰を、わたしたちが持てますように。また、わたしたちが従順であるときに神の聖なる御霊によって万事がわたしたちに明らかにされるということをいつも覚えていられますように。「霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。」(ガラテヤ6:8)

また、霊にまくとき、神の御霊の力によって内なる自己に強さが与えられますように。霊



人生の苦悩に満ちた道を雲のように覆う陰うつな霧は、
神からのみ発せられる霊的な太陽の光により
消えうせてしまいます。しかし、わたしたちが勤勉かつ謙遜に
主の御霊を享受しようとしないかぎり、
この霊的な光はさしません。

性は太陽の光に似ているからです。それは清くないものを
貫く、汚れのないものです。わたしたちの内にある霊的なも
のが世俗的なものや汚れたもの、そして悪を貫いて輝き、わ
たしたちの魂を聖めてくれますように。■

注

1. ヒーバー・J・グラント, Conference Report, 1936年10月, 3
2. アルバート・E・ポーエン, *The Church Welfare Plan* (福音の教義
学習コース, 1946年), 44
3. マーティン・H・マンサー編, *The Westminster Collection of
Christian Quotations* (2001年), 2
4. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』42
5. ウィリアム・ラウンゼビル・アルガー
6. W・E・チャニング
7. "Renescence" *Renescence and Other Poems* (1917年), 14

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後で、教える対象となる人々の参加
を促せるような方法を用いて、このメッセージを分かち合
ってください。幾つかの例を、次に挙げます。

1. 運動する、適度な食事をする、十分に休息を取るなど、
肉体を強めるために何を行えるか、家族に尋ねる。次いで、
内なる道徳的な強さを築くことに関してのファウスト副管
長のメッセージから幾つかの教えを挙げてもらう。それら
の教えの幾つかが不安や疑い、誘惑を取り除くのにどのよ
うに助けとなったか、あなたの証を伝える。

2. 家族に電池を見せ、電池がどのような働きをするか
を説明する。わたしたちの霊性はどのような点で電池に似
ているか。「霊的な気持ち」の項を読み、霊的な電池を再充
電する方法について話し合う。

3. 家族に、わたしたちが太陽から得ている恵みについ
て話し合ってもらおう。「霊的な太陽の光」の項と一緒に読む。
霊性はどのような点で太陽の光に似ており、また罪はどの
ような点で陰うつな霧に似ているかを話し合う。ファウス
ト長老は、どうすればわたしたちの生活の中で霊的な光を
増すことができると述べているだろうか。





誕生日の旅行

クリステン・ウィンミル・サウスウィック

ブラジルの若い女性にとって、15歳の誕生日は大きな意味があります。プリシラ・バイタルのお祝いは、伝統的なパーティーやダンスよりもはるかに特別なものとなりました。船とバスを使って、神殿まで行くことができました。

何年にもわたって、ブラジルは優れたサッカーチームや白い砂浜、そして熱帯性の気候でその名を広めてきました。しかし、この躍動的で、活気に満ちた文化を支える力の最大の源となっているのは、恐らくその心温かく、喜びを愛する人々でしょう。楽しい時間を友人や家族と一緒に過ごすことが、大部分の活動の中心になっています。そして、ブラジルの若い女性にとって、人生で最も大切に待ち遠しい日の一つに、15歳の誕生日のお祝いがあります。時には、家族が何年もかけてお金をため、この成人のお祝いのために盛大な晩餐会やダンスパーティーを開き、豪華な贈り物をします。

ブラジル、マナウスのリオネグロステーキの会員であるプリシラ・バイタルは、自分の15歳の誕生日を祝うに当たって、難しい決断を迫られていました。プリシラの誕生日に、母親のフランシリンは17日間にわたるステーキのブラジル・サンパウロ神殿団体参入に参加しているのです。フランシリンは、初めて神殿

に参入するために3年間貯金をしてきました。そして、フランシリンがためたお金は、プリシラと一緒に神殿に連れて行くにも十分でしたし、戻ってから15歳の伝統的なお祝いをすることもできました。強いきずなで結ばれた親族の大半はほかの教会の会員であり、プリシラの誕生日を何年も首を長くして待ち望んでいたため、決断はさらに困難になりました。親戚の人たちは、神殿へ行くことの重要性を理解してはいなかったのです。

「おじやおばは一人残らず、わたしが神殿に行かないで誕生日パーティーをすることを望んでいました。特にわたしが家族の中で唯一の娘だったからでしょう。」プリシラはこう語りました。「けれども、神殿に行くことと決めたことで、それが自分にとってどれほど大切かを親戚の人たちに知ってもらう良い機会となったのです。」

プリシラの家族が教会に加入したのは、1991年のことです。しかし、バプテスマを受けてから間もなくしてあまり活発ではなくなりました。1998年の初め、プリシラの友人が教会について勉強を始め、一緒にセミナーに行こうとプリシラを誘ったのです。



マナウスの忠実な教会員たちは(右ページ, 上), 毎年, 船とバスを使って実に長い距離をサンパウロ(上)まで向かいます。プリシラも神殿で死者のためのバプテスマを受けることができました。そしていつの日か, 家族全員(右ページ, 下)で神殿に戻りたいと願っています。

「わたしは別の宗派の教会へ集っていました。でも, その教会で教えられていることがまるで理解できなかったのです。セミナーでは, すべてのことがはっきりと教えられていて, 福音が理解できるようになりました。そしてついには, ジョセフ・スミスが神の預言者であったことを御霊^{みたま}が証^{あかし}してくれたのです。わたしはジョセフが預言者であったことを知ったとき, とても良い気持ちが出て, うれしくて涙が流れました。」プリシラはそう語っています。

プリシラの母親のフランシリンも, ワードの若い女性たちが家に訪ねて来ることを歓迎しました。フランシリンはプリシラが教会の活動に参加することを励まし, やがて, 彼女自身も定期的に参加するようになったのです。現在フランシリンは, ワード扶助協会の会長として奉仕しています。

深まる信仰の証

プリシラの福音への改宗は, マナウスで起きている数多くの奇跡の一つです。150万の人口を有する, このにぎやか港湾都市は, アマゾン盆地の産業と交易の中心となっています。末日聖徒の宣教師が初めてこの密林の都市に赴任したのは23年前のことです。以来, マナウスの教会は発展を続け, 今では5つのステークと一つの伝道部が存在し, 教会員は1万4,000人を数えています。

マナウスの教会員が信仰を深めてきた証と

して, 毎年150人から200人のマナウスの教会員が, ブラジルでいちばん近い神殿であるサンパウロ神殿への複合ステークによる団体参入を行っていることが挙げられます。都市の周辺は密林で覆われているため, マナウスからサンパウロへの交通手段は船か飛行機しかありません。航空券は非常に高額なため, 8年前にマナウスのステーク会長会が集まり, 神殿に行くことを望む人々のために, 船とバスをチャーターして, 毎年神殿団体参入を実施することにしました。ステークで費用を分担すれば, 家族と一緒に神殿へ行くのに十分なお金が捻出^{ねんしゅつ}できるのです。

団体参入では, まず船で4日間かけて, ペルーとボリビアの国境に近いブラジルの町, ポルトベリョまで向かいます。そこから教会員はチャーターしたバスに乗り, さらに3昼夜かけて, サンパウロまで行くのです。サンパウロでは, ブラジル・サンパウロ神殿に隣接する教会所有の宿泊施設に泊まります。それから4日間にわたって神殿の業に励み, 同じ日程で帰ります。

プリシラは神殿旅行の準備を始めました。母親とともに神殿に関する総大会の説教から学んだり, 教会機関誌を読んだり, 聖文を研究したりしました。また, 身代わりのバプテスマを行えるように, 父方の先祖の名前を4世代集めました。母方の先祖については, プリシラの母親が4世代の系図を作成しました。

185人の会員を乗せた船がマナウスを出航すると, 団体参入に参加したプリシラとほか



の5人の若い女性たちは、初等協会の年齢の子どもたちの面倒を見たり、食事の準備を手伝ったりしました。夜になると、ジャングルの暑い気温の中で少しでも涼しく過ごすために、船のデッキにつるしたハンモックで眠りました。

「団体参入は、実に霊的な経験でした。だれもがとても興奮していて、神殿参入を心待ちにしていました」とプリシラは語っています。「大部分の人が神殿に参入したことはありませんでした。ですから、どんなことが待っているのか正確に知っている人はほとんどいませんでした。皆で一緒に歌い、聖文を読みました。わたしたちはとても一致していました。」

バスの行程は、この旅の中で最も困難な部分でした。なぜなら、バスは3日間、昼夜を問わず進み、教会員たちはあまり動き回ることができないのです。その結果、ひどい筋肉痛を起こしたり、脚にむくみができたりした会員も大勢いました。

ついに到着

神殿に到着すると、プリシラは死者のためのバプテスマを受けるために、すぐにバプテスマ室に向かい、プリシラの母親は自分自身のエンダウメントを受けるために神殿の別の場所に向かいました。プリシラは、これほど大きな都市へ来たのは初めてだったにもかかわらず、サンパウロでは毎日神殿の中で過ごしました。

「わたしは15歳の誕生日を神殿の中で過ごしました。バプテスマフォントの係りの人が、その日がわたしの誕生日だということを知ったとき、わたしに特別なプレゼントがあると言いました。」プリシラはこう語ります。「多くの人が神殿へ来るので、ほとんどの参入者は5人分の身代わりのバプテスマしか受けられません。係りの人はわたしに、身代わりのバプテスマ

マを必要としている人の名前をたくさん割り当ててくれたのです。わたしにとって、それ以上のプレゼントはありませんでした。」

プリシラの母親は、プリシラの人生に起きたそのほかの変化について次のように説明しています。「団体参入を通して娘は霊的に感化されました。プリシラはほかのすべての教会員にとって光でした。帰って来たときには、全員が変化していました。家へ向かうバスの中で、わたしたちは外見も顔つきも変わっていることに気づきました。とても幸福だったのです。」

福音を分かち合いたいというプリシラの模範と熱意によって、親戚や友人の多くが教会に加入しました。そのうちの



人であるプリシラのおばは、最近、ブラジル・レシフェ伝道部での奉仕から帰還したばかりです。現在プリシラは、家族として結び固めを受けることができるように、父親と二人の兄弟たちに神殿に行く備えをするよう励ましています。プリシラの願いはすぐに現実のものとなることでしょう。

プリシラにとって、15歳の誕生日のお祝いをあきらめることは犠牲ではありませんでした。「家へ帰る時間になったとき、わたしは神殿を去りたくはありませんでした。」プリシラは最後にこう述べています。「わたしのたった一つの望みは、お金をためて、できるだけ早く神殿へ戻れるようにすることです。」■

クリステン・ウインミル・サウスウィックは、マサチューセッツ州ボストンステーク、ウェストン第2ワードの会員です。

確かに神の愛は完全であり、無限で、とこしえに続き、普遍です。
しかし、無条件で与えられるものではありません。

神

の

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン



恐怖や憎しみに翻弄^{ほんろう}される今日の世の中において、神の愛に関するわたしたちの知識はこの上なく大切なものです。天の御父とキリスト・イエスが栄光に満ち、生きておられ、そして愛の御方であられることを理解^{あかし}して、証することはわたしたちの責任です。「神はそのひとり子を賜^{みこ}わったほどに、この世を愛して下さった。それは信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」¹ イエスは「〔御自分〕の命を〔お与えになった〕ほどにこの世を〔愛されました。〕それは信じるすべての者が神の子となるためです。」² まことに、御父と御子は目的と愛において一致しておられます。³

の光です。¹¹「主は、御自分のもとに来……るように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。」¹²そして、すべての人は天の御父に祈るよう勧められています。¹³

神の愛には条件も伴う

確かに神の愛は完全であり、無限で、とこしえに続き、普遍です。しかし、無条件で与えられるものではありません。聖文には

神の愛は完全であり、無限である

御父と御子の愛は当然のことながら神聖なものです。聖文はそのうえに、完全であると述べています。⁴ 神の愛が無限であるのは、贖罪^{しよくざい}が、過去に生を受けた人々、現在生きている人々、そして今後生を受けるすべての人々に対して向けられている愛の行為だからです。⁵ 時間という概念を超越しているという理由からも無限なのです。

神の愛はとこしえに続く

神の愛はとこしえに続きます。⁶ 「主は……〔御自分〕を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及」ぼされるのです。⁷

神の愛は普遍である

神の愛は普遍です。⁸ 神は「悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らして下さいます。」⁹ イエスは万物に命と律法を与えておられる¹⁰ 世

「わたしについてきなさい」との救い主の招きに従い、ペテロとアンデレは網を捨てました。その結果としてすばらしい祝福を受けたのです。同様に、わたしたちも主の戒めに謙遜に従うなら祝福を受けます。



愛



そのように記されていないのです。むしろ、御父と御子がわたしたち一人一人に抱いておられる高いレベルの愛、その愛からもたらされる神の特定の祝福には条件が伴うことが多くの聖句から確認できます。その例を引用する前に、聖文の中で用いられている、条件を伴う様々な表現方法について知っておいた方がよいでしょう。

条件を伴う表現方法

聖文には、条件を伴う表現方法が幾つかあります。

- 「もし……[特定の条件が存在する]ならば、……[特定の結果がもたらされる]。」「もし」と「ならば」という語は表記されている場合と暗示されている場合とがある。
- 「……[特定の条件が存在する]かぎり、……[特定の結果がもたらされる]。」「¹⁴
- 「……なければ、……できない。」「¹⁵
- 「……試し、……かどうかを……。」例えば、創造に関する次の一節ではわたしたちがこの世に存在する最も大切な目的が明らかにされています。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」「¹⁶ この世の生涯は試しの時期です。この世の試しの生涯が天において認められるかどうかは、わたしたちの思いと行いによって決まるのです。¹⁷

最後の審判において、救い主は現世での従順さに応じてわたしたちを裁かれます。天において認められるかどうかは、わたしたちの思いと行いによるのです。

神の愛に伴う条件

聖文の中には、条件が伴う部分

についての独特な表現があります。そのことを踏まえながら聖文を調べてみると、神の愛には条件が伴うことを示す節が数多くあることに気づきます。それらの例を挙げてみましょう。

- 「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおると同じである。」「¹⁸
- 「もしあなたがたがわたしの戒めを守らなければ、父の愛が引き続きあなたがたに伴うことはない。」「¹⁹
- 「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。」「²⁰
- 「わたしは、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに会う。」「²¹
- 「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて下さる……。」「²²
- 主は「主を神とする人々を愛されます。」「²³
- 「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう。」「²⁴

神の祝福に伴う条件

神の愛と同じように、慈愛に満ちた主から特定の祝福を受けるには、求められている条件を満たさなければなりません。それらの例を挙げてみましょう。

- 「もしあなたが、……わたしの道に歩んで、わたしの定めと命令とを守るならば、わたしはあなたの日を長くするであろう。」「²⁵
- 「もしあなたがわたしの定めに進み、おきてを行い、すべての戒めを守り、それに従って歩むならば、わたしはあなたの父ダビデに約束したことを成就する。」「²⁶



- 「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」²⁷
- 「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」²⁸
- 「すべての王国に一つの律法が与えられており、すべての律法に一定の限界と条件がある。」²⁹

主はこのように宣言しておられます。「わたしから祝福を受けたいと思う者は皆、その祝福のために定められた律法とその条件に従わなければならない。……

この新しくかつ永遠の聖約についてであるが、これはわたしの完全な栄光のために定められたものであって、この完全な栄光を受ける者はその律法に従わなければならない。そうしなければ罰の定めを受ける、と主なる神は言う。

……この律法の条件は次のとおりである。すなわち、すべての聖約や契約、きずな、義務、誓詞、誓言、履行、関係、交際、期待がなされ、また交わされるとき、……油注がれた者によって、……結び固められなければ、これらは死者の中からの復活の時も、その後も、まったく効験や効能、効力がない。」³⁰

そのほかの律法は、死すべき世にいるわたしたちを祝福するために設けられています。そのような律法の一つが什分の一です。「十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、……主は言われる。」³¹この祝福は条件が伴うのです。什分の一を納めていない人は約束を受けないのです。³²

「神があなたがたに要求しておられるのは、神の戒めを守ることだけである。そして神は、戒めを守るならばこの地で栄えると約束してくださっている。神は一度言われたことは決

条件を伴うとはどのような意味か

「条件を伴う」(conditional)という語はラテン語に由来している。“con”は「ともに(with)」を意味し、“dicere”は「話すこと(to talk)」を意味する。このように「条件を伴う」(conditional)という言葉は「制限または条件が言葉によって伝えられていること」を意味する。

「無条件」(unconditional)とは「条件や限界のない状態、または絶対的」を意味する。

して変更されないのです、あなたがたが神の戒めを守れば、神はあなたがたを祝福し、栄えさせてくださる。」³³

神の愛にはなぜ条件が伴うのでしょうか。神はわたしたちを愛しておられて、幸せになることを望んでおられるからです。「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり、わたしたちが意図するものである。わたしたちがそこに通じる道に従っていけば、最後に到達できるものである。その道とは、徳、公正、忠実、^{まよ}聖さ、そして神のすべての戒めを守ることである。」³⁴

誤った考えに対する防備

神の愛と祝福がまったく「無条件」ではないことを理解していると、「神の愛は無条件だから、……に関係なくわたしを愛してくださる」や「『神は愛である』³⁵から、たとえ……であっても、わたしを無条件で愛してくださるだろう」というような誤った考えに陥るのを防ぐことができます。

反キリスト教徒は人々を欺くために以上のような主張を振りかざして論争を展開します。例えば、ニーホルは偽りを広めることによって、人々の間でのし上がってきました。彼は「全人類は終わりの日に救われる……主がすべての人を造られ、……結局すべての人が永遠の命を得るからであると、人々に公言」しました。³⁶ 悲しいことに、ある人々はニーホルの偽りの教えと無条件説を信じました。

ニーホルの教えに反して、神の愛は「悪事は決して幸福を生じたことがない」³⁷と警告しています。イエスは「わたしのものに来て救いを得なさい。……わたしの戒めを守らなければ、あなたがたは決して天の王国に入れないであろう」と説明されました。³⁸

神の愛と罪人

これは、主が罪人を愛しておられないという意味でしょうか。もちろん、そのようなことはありません。神の愛は無限であり、普遍です。救い主は聖徒も罪人も愛しておられます。使徒ヨハネは次のように断言しました。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」³⁹ ニーフアイは示現の中で、主がこの世において教え導かれる様子を目にしました。そして、このように宣言しました。「世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断



「最後の審判」シモン・スロマト画



すべての祝福を手にしたと思うならば、悔い改めなければなりません。⁴⁸

悔い改めの勧告

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこのように述べました。「主がその民に差し出しておられるすべての祝福には条件が伴っています。その条件とは、『わたしの律法に従い、わたしの戒めを守り、わたしの儀式を受け、わたしの掟を守りなさい。また、慈悲を示し、……律法にあって自らを清く保ちなさい。そうすればこれらの祝福を受けるであろう。しかし、これらを行わないかぎり、祝福を受けることはない』というものです。』⁴⁹

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は同じような考えを述べています。「神が民全体と個人に対して定めておられる条件について、わたしはこのように考えています。自らの行いによってふさわしいことを証明しないかぎり、神に対しても、兄弟たちに対しても祝福や好意、信頼、愛を要求することはできないとわたしは信じています。自分が受けるに値しない祝福まで与えられるとは考えていません。』⁵⁰

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこのように語りました。「主は『ほんのわずかでも罪を見過ごしに〔される〕ことは』ありません(教義と聖約1:31)。神が罪に対して向けておられる憎しみを知って、わたしたちが悔い改めを通して自らの生活を変えるように努めるならば、わたしたちは……なおいっそう神の愛……を知ることができるのです。』⁵¹

わたしたちは皆不完全さを持っているので、一人一人がそれぞれに責任ある決断を下さなければならないのです。「悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。

また、悔い改めない者は、すでに受けている光さえ取り去られる。わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではないからである、と……主は言う。』⁵²

悔い改めの段階を踏むときには、努力することと結果を出すことの両方が必要です。主は、霊的な賜物は「わたしを愛してわたしのすべての戒めを守る者たちと、そうしようと努める者たちのため」⁵³ に与えられると教えておられます。

神の愛は規範を与えている

イエスは、御自身が人々を愛したように、わたしたちも互いに愛し合うように言われました。⁵⁴ そのようなことができるのでしょうか。わたしたちは、神のように人々を愛することができるのでしょうか。それは可能です。⁵⁵ キリストの純粋な愛はそれを求める、すべてのふさわしい人に与えられるのです。⁵⁶ そのような愛には仕えること⁵⁷が含まれており、従順であるこ

まず最初に神の戒めを守らなければ、神の愛が込められた数々の祝福を受けられないのだということを子どもたちに理解させなければならないのです。

する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさ^{むら}と寛容に富んでおられるからである。⁴⁰ わたしたちは、贖い主の愛が万人に向けられていることを知っています。なぜなら主は、世を去るすべての人々が再び生きるために亡くなられたからです。⁴¹

不死不滅と永遠の命

神は御自身の業と栄光が「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」⁴²であると言われました。贖いにより、不死不滅の賜物は無条件で与えられます。⁴³ しかしながら、これよりもさらに偉大な賜物である永遠の命には条件が伴うのです。⁴⁴ この賜物を受けるには神の御心に添わないものを拒み、⁴⁵ 神殿の儀式と聖約を尊ばなければなりません。⁴⁶ 神の愛という美しくまばゆいばかりのブーケには、永遠の命をはじめとする数々の祝福が含まれています。わたしたちがそれを受けるには条件を満たさなければなりません。ふさわしくないまま受けることはできないのです。罪人は自分の都合に合わせて神の御心を変えたり、罪のあるまま神の祝福を要求したりすることはできません。⁴⁷ もし彼らが神の美しいブーケを飾っているす

とが求められます。⁵⁸

神の律法に従うには信仰が必要です。信仰なしに、この世の試しと試練を克服することはできません。信仰は同時に、神を愛していることを証明するものでもあります。⁵⁹ わたしたちの生活が主に近づけば近づくほど、わたしたちの愛は純粹で神聖なものとなっていきます。⁶⁰

この世において、親が子どもに対して抱く愛ほど神の愛に近いものはないでしょう。わたしたちは親として、天の両親と同じように子どもたちに従順を教える義務があります。子どもたちに、人々の個性を受け入れるよう教えることはできます。⁶¹

注

1. ヨハネ3:16
2. 教義と聖約34:3
3. 2ニーファイ31:21; アルマ12:33; 教義と聖約93:3参照
4. 1ヨハネ4:12, 15-18参照
5. アルマ34:9-12参照。また神の愛は、すべての忠実な者が最終的に「たぐいなき豊かな神の愛に取り巻かれ[る]」ため、無限である(アルマ26:15)。
6. イザヤ54:10参照。3ニーファイ22:10も参照
7. 申命7:9。歴代上16:15; 詩篇105:8も参照
8. 「全世界または世界中にかかわる、行き渡る、影響を与える」と定義されている(*The American Heritage Dictionary*, 第4版[2000年], “Universal,”の項, 1883)。
9. マタイ5:45。3ニーファイ12:45も参照
10. 教義と聖約88:6-13参照
11. ヨハネ8:12; 9:5参照
12. 2ニーファイ26:33
13. マタイ6:6参照。3ニーファイ13:6; モロナイ7:48も参照
14. 例として、1ニーファイ2:20; 4:14; 2ニーファイ1:9, 20; 4:4; ジェロム1:9; オムナイ1:6; アルマ9:13; 36:1, 30; 38:1; 50:20; ヒラマン4:15参照
15. 「だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできなし。」(ヨハネ3:5, 強調付加)と「あなたがたはわたしの

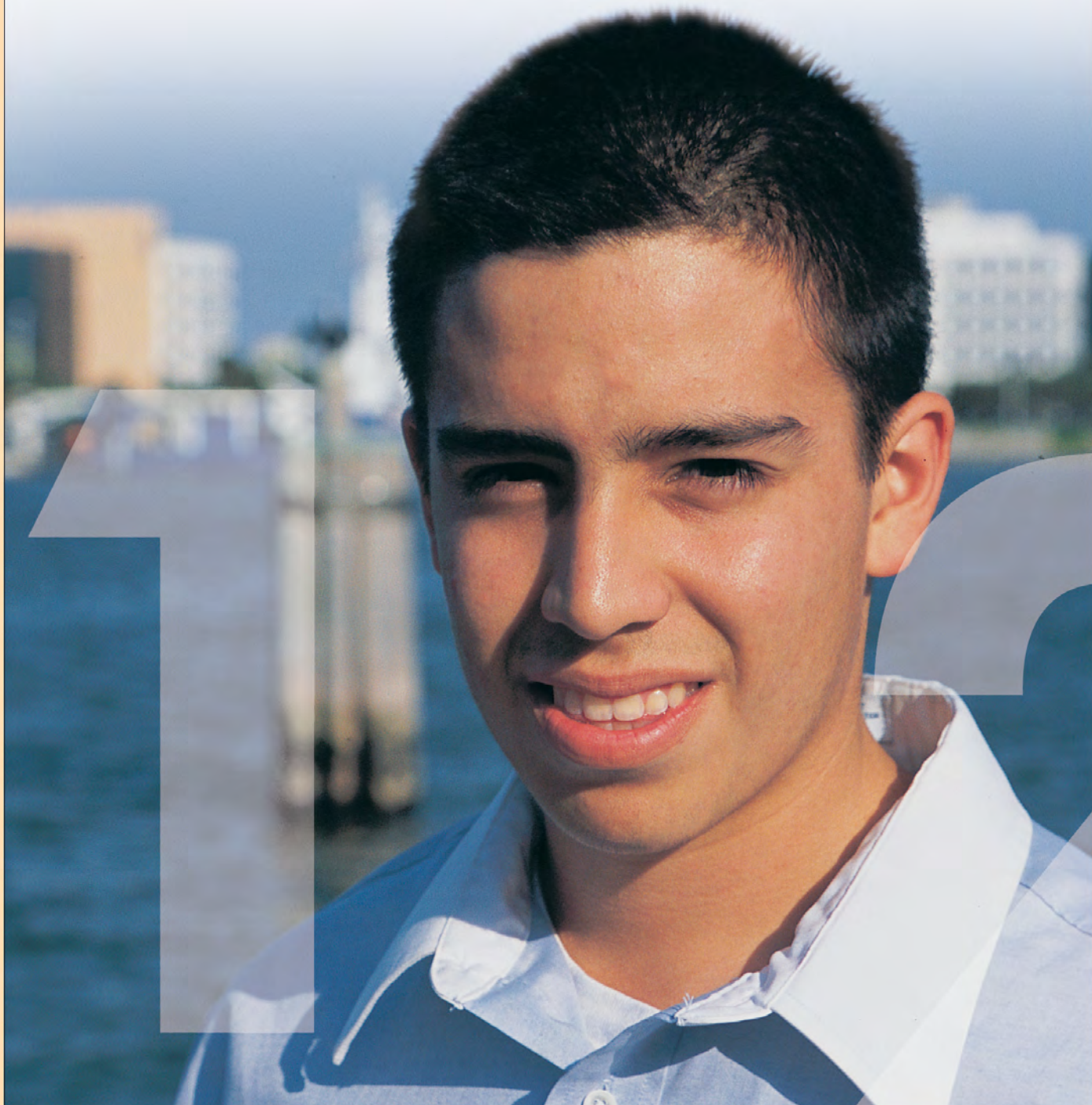
- 律法に従わなければ、この栄光に達することができない」を例として挙げるができる(教義と聖約132:21, 強調付加)。エテル12:34; 教義と聖約25:15; 132:21も参照
16. アブラハム3:25, 強調付加。マラキ3:10; 3ニーファイ24:10も参照
17. マタイ25:21, 23参照
18. ヨハネ15:10, 強調付加
19. 教義と聖約95:12, 強調付加
20. ヨハネ14:23, 強調付加
21. 箴言8:17
22. 使徒10:34-35
23. 1ニーファイ17:40
24. ヨハネ14:21
25. 列王上3:14, 強調付加。申命19:9も参照
26. 列王上6:12, 強調付加
27. 教義と聖約82:10
28. 教義と聖約130:21
29. 教義と聖約88:38。132:5も参照
30. 教義と聖約132:5-7。アルマ9:12; 42:13, 17も参照
31. マラキ3:10, 強調付加。3ニーファイ24:10も参照。主は什分の一の納める者をどのように祝福するか定められなかった。ある人々は物質面よりも霊的面で多くの祝福を受ける。
32. 教義と聖約119:4-5参照。神の民となるには什分の一を納めなければならぬ(教義と聖約85:3参照)。
33. モーサヤ2:22, 強調付加。この

しかし、子どもたちが神の律法に背くのを受け入れることはできません。王国の教義⁶²を教え、主に頼り、まず初めに神の戒めを守らなければ神の愛が込められた数々の祝福を受けられないのだということ⁶³を子どもたちに理解させなければならぬのです。

神の愛は完全であり、無限であり、とこしえに続き、普遍です。神の愛を完全に受け、その愛から最大の祝福を受けるには条件が伴います。それは永遠の律法に従うことです。わたしたちがこれらの祝福の条件を満たし、永続する喜びを手にすることができるよう祈っています。■

- 条件を伴う勧告は、聖文全体を通じて何度も繰り返し与えられている。1ニーファイ2:20; 4:14; 2ニーファイ1:9, 20; 4:4; モルモン書ヤコブ2:17-19; ジェロム1:9; オムナイ1:6; モーサヤ1:7; 2:31; アルマ9:13; 36:1, 30; 37:13; 38:1; 48:15, 25; 50:20; ヒラマン3:20参照
34. ジョセフ・スミス, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 255-256, 強調付加
35. 1ヨハネ4:8, 16
36. アルマ1:4, 強調付加。1:3, 5-6; 2ニーファイ28:8-9も参照。このような無条件説(万人に永遠の命が与えられる)は儀式や聖約、神殿の業の必要性を否定するものである。
37. アルマ41:10
38. 3ニーファイ12:20, 強調付加
39. 1ヨハネ4:19
40. 1ニーファイ19:9, 強調付加
41. ローマ5:8; 2コリント5:14-15参照。1コリント15:22も参照
42. モーセ1:39
43. 使徒24:15; 1コリント15:22; アルマ12:8; 教義と聖約76:17; ジョセフ・スミス訳ヨハネ5:29(英文)参照
44. 教義と聖約14:7参照
45. モロナイ10:32; ジョセフ・スミス訳マタイ16:26参照
46. 教義と聖約132:19参照
47. アルマ11:37参照
48. 主は「あなたは自分が戒めに背いたことについては弁解の余地がない。……あなたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい」と言われた(教義と聖約24:2)。ヨハネ8:11; 教義と聖約6:35; 29:3; 82:7; 97:27も参照
49. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選(1954年), 454
50. *Deseret News*, 1873年11月12日付, 644
51. 『救しの奇跡』65
52. 教義と聖約1:32-33
53. 教義と聖約46:9, 強調付加
54. ヨハネ13:34; 15:12参照
55. エテル12:33-34; モロナイ7:46-47参照
56. モロナイ7:48参照
57. ガラテヤ5:13; モーサヤ2:18-21; 4:15参照
58. ヨハネはこのように教えた。「彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。」(1ヨハネ2:5)
59. 申命13:3; ヨハネ14:15; 15:6-7参照
60. マタイ6:19-22; 教義と聖約88:67-68; 93:11-20参照
61. 信仰箇条1:11参照
62. 教義には救いの計画、信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物が含まれる(モロナイ8:10; 教義と聖約68:25; モーセ6:57-62参照)。
63. モーサヤ4:6-7参照

モーリスに おまかせ



写真／ローリー・リブシー、静物写真／ジョン・ルーク



ローラ・リブシー

数学の天才少年は、16歳のとき、フットボールの花形選手が週に1度の数学の個人レッスンを受けにやって来るのを、放課後の教室で座って待っていました。代数や微積分、三角法が大好きなこの若者は、全米でいちばん優れた高校生ランニングバックとして評判のフットボールのヒーローに毎週1時間ほど多項式を教え、一緒に指数方程式を解く練習をしていました。フットボールの試合に勝つことはできるのですが、代数となると話は別です。それはかなりの試練でした。そのときこの個人レッスン教師が彼を助けに来てくれたのです。

その年度が終わり、個人レッスンも終了しました。教師を務めた少年は進級を心待ちにし、個人レッスンを受けた生徒は、高校を卒業し、スポーツ選手対象の奨学生としてマイアミ大学に行くことになりました。

数学の天才少年はこう言います。「彼が将来有名なフットボール選手になったときに、お父さんはあの人に数学を教えたんだって子どもたちに自慢できますからね。」

それから2年後、モーリス・ナバロは再び、フロリダ州マイアミ近郊のコーラルゲブルズ高校の教室に座っています。授業は30分前に終わりましたが、以前と同じように何人かの生徒がモーリス

スの周りに集まって来ました。モーリスは数学がよく理解できない同級生に、数学を教えるのです。

それがモーリス・ナバロです。今も数学の個人レッスンをして、人々を助けています。

多忙な少年

「これは母親譲りなんです」とモーリスは自らの奉仕を指して言います。「だれかを助けることができるのであれば、それはほくにとってとても大切なことだと母は教えてくれました。数学をよく理解できない人もいます。だからほくが教えるんです。ほくは数学がよく分かるので、喜んで教えています。」

モーリスにとって、地域の二つの医療センターでのボランティア活動も同じことです。毎週金曜日と土曜日に二つの病院で様々な雑務をこなし、約9時間の奉仕を行っています。

「病気の人々のために働いています。車いすやベッドを押して病院のいろいろな場所に連れて行ってあげます」とモーリスは言います。「病院では、だれかが人のために善い行いをするとみんながほほえみます。病気の人々のところへ行き、彼らに会い、そのような反応を見るのが好きです。」

「個人レッスンのときも同じです」とモーリスは続けます。「ほくが教えたことが分かったとだ



モーリス・ナバロは多忙な少年です。けれど同級生に勉強を教え、地元の二つの病院でボランティアをする時間を捻出しています。

れかが言うのを聞くとき、自分の役割が果たせたと実感します。そして病院では人々のほほえみからそれを感じることができます。』

一つの模範

フロリダ州マイアミ（スペイン語）ステーク、フォンテンプロー（スペイン語）ワードでは、モーリスは祭司定員会の監督第一補佐を務めています。少し前のことですが、まだ幼い執事だったとき、モーリスは伝道に出るための準備をしている神権者を尊敬していました。今度はモーリスがみんなを導く番です。「若い男性の中ではいちばん



年上ですから、自分が今まで年上の青少年たちを模範としていたのと同じように、執事や教師の青少年たちから良い模範と見られることを願っています」とモーリスは言います。

ワードのアロン神権者に対してモーリスが良い模範となっている一例として、昨年彼が行ったイーグルスカウトの活動があります。モーリスは「子どもIDデー」なるものを設け、子ども連れでワードの建物を訪問するようにと、ある土曜日に地域の人々を招待したのです。子どもたちの指紋を取り、ビデオ撮影を行いました。警察が子どもを守る方法について話をした後、付き添

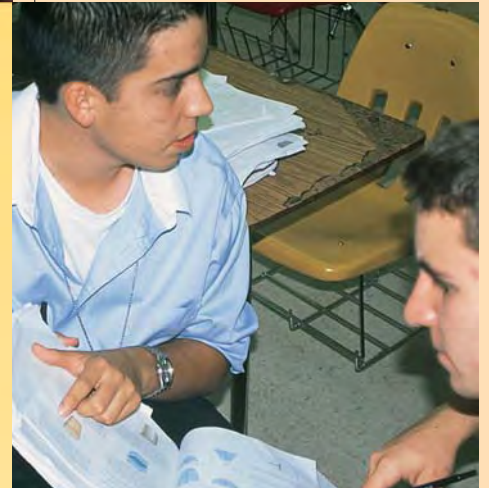


イーグルスカウトの活動で、モーリスは子ども連れの親を教会のオープンハウスに招待し、子どもたちの指紋を取れるようにしました。また、週に1, 2回、同級生に数学を分かりやすく教えています。

いの親たちは子どもの指紋カードとビデオを持ち帰りました。こうして両親の手もとに置いておけば、いなくなった子どもを確認したり見つけ出したりするためにこのような情報が必要となったときに役立ちます。

モーリスはこの活動のために非常に多くの時間を費やしました。そして100人近くの子どもが集まってくれました。さらにモーリスは参加する人々に、困っている人々に寄付するための缶詰を一つか二つ持って来るように頼んでいました。こうして集められた缶詰は大きな箱3つ分になりました。

「この活動の好きなのは、ほかの



活動と異なっていることでした。」モーリスはそう言います。「ほかとはまったく違ったものにしたかったのです。人々がビデオや指紋を決して使う必要のないことを願っています。そのような事態になってほしくはありません。でも、ビデオや指紋は万一の場合の良い備えとなるでしょう。」

家族の伝統

現在18歳のモーリスは、11月で19歳になります。高校を卒業した後、長期にわたる本格的な奉仕に取り組む機会を得るでしょう。

モーリスが教会の伝道プログラムに

ついて話すとき、同級生のみんなが不思議そうな顔で彼を見ます。伝道とは一体何なのか分からなくなったり、知恵の言葉について疑問を抱いたりして、教会に関することが話題になると、生徒たちはよくモーリスに尋ねにきます。モーリスはコーラルゲブルズ高校で唯一の末日聖徒なのです。

「学校のみみんなが伝道についてしょっちゅう質問してくるので、喜んで説明します。みんなにとっては、ぼくが伝道に出たいと思っていることを理解するのは難しいようです。教会の若者が、だれに強制されることなく2年間の伝道に出るということを話すと、みんな驚いた顔をします。ぼくももうじき伝道に出ます。」

「父は20代のときバプテスマを受けたので、伝道の経験がありません」とモーリスは付け加えます。「親族の中で唯一の伝道経験者はおじです。だからぼくが伝道に出ることは家族の新たな伝



統の始まりだと考えています。」

たくさんの小さな役割

モーリスはこれまでの人生で、たくさんの人々の人生における小さな役割

を果たしてきました。モーリスに教わったコーラルゲブルズの生徒は数学のテストに合格し、モーリスは彼らの成功に貢献したと実感しています。親たちは万一に備えて子どもたちの情報を記録しました。彼らはモーリスに感謝するでしょう。また病院で、病気の人々が車いすで移動するのを助けるのも、彼です。これらは取るに足りないささいなことかもしれませんが、けれどモーリスは、時間をやり繰りしてこれらの様々な小さな活動に取り組んでいます。

恐らくモーリスは期待していないでしょうが、やがてある日、フットボールの花形選手がモーリスの子どもたちのところへやって来て、高校時代の友人についてこう話すかもしれません。「君たちのお父さんがぼくに数学を教えてくださいたんだよ。」■



質疑応答

友達が純潔の律法を理解できるように助けるには どうしたらよいでしょうか

なぜわたしが純潔の律法を守るのか、友達はなかなか理解できません。どのように言えば、このデリケートな話題に対する私の教えを理解してもらえるでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

少し前までは、性的に清い生活を送りたいという気持ちに疑問を差し挟む人々はどこの国を探してもあまりいなかったことと思います。ところが社会通念が劇

的に変化した近年、結婚前の純潔と結婚後の貞節を理解し難いと考えの人が多くなっているようです。さらに純潔は神聖で個人的な事柄なので、友達に分かって

らうのは難しいと思うのは当然かもしれません。

しかし友達との関係を心配するあまり、この大切な話題から逃げることのないようにしてください。あなたの意見を聞くことによって、友達は探し求めていた答えを見いだすかもしれないのです。あなたとの会話を通して、あなたの周りにも人も次のような価値観を持てるようになるかもしれないのです。「性的に清くあることは神様から与えられた戒めであり、最も賢明な生き方である——純潔は、自由を奪うものではなく、反対に大きな自由と平安と守りを与えてくれるものである。」

主に導きを求めるなら、純潔の律法を守る理由を適確に伝えられるよう助けが与えられるでしょう。実際にどんな言葉で話すかは、相手と状況によって多少異なるものです。「清い生活ってすばらしいですよ。神様は人に清くあるよう望んでおられるはずですよ」といった短い言葉で十分な場合もあるかもしれません。しかし相手が親しい友達なら、「若人の強さのために」に載っている性的な清さについて話すともよいでしょう。

以下のポイントも話の中に盛り込むともよいでしょう。

- 性的に清くあれば、健全な関係を築くことが簡単になります。健全な関係を築くための基となるのは、友情、敬意、理解、コミュニケーション、信頼、共通の興味、福音に添った価値観です。これらの事柄を第一にすれば、安心して適切に相手と知り合うことができます。

- 純潔の律法を守っていれば、より大きな自信と自尊心が得られます。性的に清



い関係を保っていないければ、相手との関係の中であなたの肉体が最も高く評価され、そのほかの良い特質が過小評価されることになりかねません。性的に清い関係を保っていれば、人格、能力、優しさ、善良さが評価されるのです。

● 性的な清さは身を守ってくれます。多くの肉体的な病気を避けることができただけでなく、霊的な健康も維持できます。

● 純潔は戒めです(ガラテヤ5:16-17, 19-21参照)。戒めに従順であれば、幸福、平安、その他の祝福が得られます。

● 純潔を守るならば天の御父に敬意を表すことができます。生命を造る力は神聖に扱うべきものです。純潔の律法を破ると、とても神聖な贈り物をあざけることになります。

● なぜ純潔の律法に従っているかといえば、この律法に従いたいからです。性的な清さは祝福なのです。

● 性的な清さは将来の夫婦のきずなを強めてくれます。貞節を守ってきた夫婦には完全な信頼が生まれるでしょう。

読者からの提案

ある日、何人かの友達が、純潔は過去の風習で、今はだれもそんな戒めに従っていないと言い始めました。わたしはすぐに、自分がその戒めを守っていること、そしてその戒めを同じように守っている人をたくさん知っていると言いました。友達は笑って、もし誘惑を受けたらどうするのかと言いました。わたしはある人からの誘惑を拒絶したときの経験を話しました。その女性は強引だったので、わたしは彼女の前から走り去ったのです。それから友達に、人が神の御姿に造られていることや人の体が神聖であることを話しました。その日わたしの話を聞いていた友達の一人が、数か月後にバプテスマを受けました。



ブラジル・
ブラジリア北ステーキ、
プラナルティア第2ワード、
ホワン・フェルナンド・ダ・
シルバ、20歳

言葉で説明しても友達の考えが変わらないときは、模範によって変えようと努めました。そのために、彼女たちと行動を共にできないことが何度もありました。けれど、一人取り残されても、自分の選択が正しいことを確信していました。

今、何人かの友達は苦い経験をし、そのうちの数人はこの大切な律法に従い始めています。



エクアドル・
グアヤキル東ステーキ、
イシドロアヨラワード
リンダ・ロペス・フィエロ、
16歳

神の祝福を得るためには、聖霊の導きを受け、聖霊と絶えず交わることが必要です。そのことを説明してみてもどうでしょうか。婚前交渉を避け、結婚後も伴侶に対して忠実であり続けることは、聖霊との交わりを維持するうえで欠かせません。

ナイジェリア・ワリ地方部、
ウグボリココ支部
エメカ・オフォエグブ、23歳

デビット・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は、次のように教えています。「女性は自分自身の肉体の女王として、肉体を治めなければならない。」(Conference Report, 1952年4月, 86)もしわたしの霊が肉欲に負けるなら、わたしは自分を尊敬できなくなってしまうでしょう。自分を尊敬できなければ、心と意思と力を尽くして



警告

「初めに、サタンは天の御父の計画に背きました。サタンはその計画を破壊し、途絶えさせると誓いました。

サタンは肉体を得ることを許されず、神の御前から追放されました。自らの王国を築くことが永遠にできなくなったのです。そして悪意とねたみを抱くようになりました。サタンは、創造の力が神の計画の単なる一部分ではなく、計画の鍵となる最も重要な部分であることを知っています。

サタンは、皆さんが時期尚早で若すぎるうちにこの力を用い、いかなる形であれこの力を誤用するよういざなうことさえできれば、皆さんから永遠に進歩する機会を奪えることを知っているのです。」——十二使徒定員会会長代理、ボイド・K・パッカー(「なぜ清くあるべきか」『聖徒の道』1973年1月号, 15参照)

天の御父を愛することも、隣人を自分のように愛することもできなくなります。霊が肉体を治め、道徳的に清くならなければ、自分の肉体の女王になることなどできません。



フィンランド・クオピオ地方部、
ヨエンスー支部
アン・ソイニネン、20歳

批判的にならないように気をつけています。けれども、清い女性であることを何よりも大切にしていると、友達にはっきり伝えるようにしています。



ガーナ・
ケープコーストステーク、
オラ大学ワード
アマ・ダパー、23歳

もし質問されたら、わたしは十戒について話しています。また、性的な不道徳は殺人の次に重大な罪であることも説明しています(アルマ39:5参照)。友達はいつも驚きますが、主が戒めを与えておられるのは人に幸福になってほしいと望んでおられるからであり、戒めに従う人々は祝福を受けるのだと説明するようにしています。



ロシア・モスクワ南伝道部、
ボロネジレボベレジニ支部
イリナ・クツエンコ、19歳

思いや行いを清く保ち、つつましい服装をし、正しい言葉遣いをするによって、模範を示したらどうでしょうか。そして、清い生活を送るならば終わりの日に神

の前に罪のない状態で立てると教えてみてはどうでしょう。



サモア・アピア伝道部
タギアペ・ア・マガロ長老、
27歳

伝道に出る前、友達はこの律法を破る方法についてよく話していました。罪を避ける方法についての話はほとんどありませんでした。しかし、伝道に出てから分かったのですが、行いを清くするために思いを清めるべきであるということをお教えるのは決して不可能ではないのです。わたしたちが説明しようとするときには、主が必要な言葉を与えてくださいます。



ホンジュラス・
サンペドロ・スラ伝道部
オットー・E・ビソニ・O
長老、20歳

使徒パウロはこのように語っています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのである。」(1コリント3:16-17)わたしたちの体は自分のものではありません。ですから、純潔の律法を守ることによって、肉体を大切にしなければならないのです。



タヒチ・ラロマタイステーク、
ウトウロアワード
タヒア・モウ・ファ、16歳

純潔という徳を擁護する意見を述べるようにしています。そして、両親や教会の指導者から教えてもらったことを話したり、この律法に関して教えている聖文を示したりします。



トンガ・ヌクアロファ・
ハーカメステーク、
マタハウ第2ワード
マカレタ・フォヌア、18歳

「質疑応答」は、青少年を対象としており、様々な国の青少年からの幅広い提案を掲載したいと願っています。2003年3月1日までに、あなたのご意見をお送りください。あて先は次のとおりです。Questions and Answers, 03/03, Liahona, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA, またはEメールでcur-liahona-imag@ldschurch.orgまでお送りください。手書き、パソコンいずれでもけっこうですが、手書きの場合は、かい書で読みやすい文字でお書きください。言語は問いません。住所、氏名、年齢、所属ステーク/地方部、ワード/支部を明記のうえ、写真を同封してください。ただし返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。

質問——父はとても忙しい人です。わたしも、学校、友達、教会の活動などであまり家にいません。父とはほとんど顔を合わす時間はありませんが、それでも親しい間柄でありたいと思っています。何か良い方法はないでしょうか。■

すべての必要なものを 用意しなさい

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

教義と聖約第88章119節——主はカーランド神殿を建設中の聖徒たちに、今日、義にかなった生活、義にかなった家族を築いていくうえでも適用できる勧告をお与えになりました。それは、「すべての必要なものを用意しなさい」という勧告です。

わたしたちは、自分自身や家族を備えるに当たって、何が「必要なもの」か、あるいは何を最優先すべきかをどのように決めているでしょうか。

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス——「イエスは優先順位について次のように教えられました。『この世のものを求めないで、まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい』」

い。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。』（ジョセフ・スミス訳マタイ6:38）『まず、神の王国を築くことを求めらる』』という言葉の意味するところは、神とその業を優先順位の第1位に置く、ということです。神の業とは、神の子どもたちの永遠の命をもたらすことです（モーセ1:39参照）。ほかにも、神の業の中には、天の御父の子どもたちの誕生、養育、教育、結び固めなどが含まれます。それ以外のことはすべて、優先順位の低位の方に位置します。』（「的を絞ることと優先順位」『リアホナ』2001年7月号、101）

元中央若い女性第一副会長 パトリシア・T・ホランド——「美しく晴れあがったある日、わたしは腰をかけてガリラヤ湖を見下ろしていました。そして聖書を取り、わたしのように『多くのことに……思いわずらっている』ルカによる福音書にあるマルタの記事を開きました。ところがそのときわたしは、目の前の印刷された文字に代わって、心の目で見、心の耳で次のような言葉を聞いたような気がしました。『パットよ、パットよ、あなたは多くのことに心を配って思い煩っている。』そして、『しかし、ほんとうになくてならないものは多くはない。いや、一つだけである』（ルカ10:38-42参照）という箇所を読んだとき、わたしに向けられた清らかな啓示の力に包まれたのです。……

愛する天の御父がわたしに対して、霊から霊へじかにこうささやいてくださっているように思われました。『多くのことを思い煩う必要はない。なくてはならないもの、ほんとうに大切なことはただ一つ。それは日

の光、つまりわたしの独り子に目を向けることなのだよ。』

そして、さらにこう言われているかのようでした。『わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。』（教義と聖約19:23）』（「無くてならぬものは……一つだけである」『聖徒の道』1988年3月号、35参照）

自分自身と家族を備えるうえで、いろいろな事柄に注意をそらせてしまうのを避けるにはどうしたらよいでしょうか。

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

「聖霊の導きを容易に識別できる神聖な場所が幾つかあります。神殿はそのような場所です。定期的に平安で静かな場所へ行き、そこで深く考え、人生の指針を主から受けてください。わたしたちは定期的に自分の位置を調べて、正しい道を歩んでいるかどうかを確認する必要があります。近い将来、次のように自問自答することがあなたの役に立つことでしょう。

地上にいる間にわたしが成し遂げなければならないことの中で、最も優先順位が高い事柄は何だろうか。

自由な時間をどのように過ごしているだろうか。その時間の一部を常に優先順位の高い事柄のために使っているだろうか。

してはいけないと知っていながら行っていることがあるだろうか。もしあれば、わたしは悔い改めて、今すぐにその行いをやめよう。

静かな時間を取って、あなたの答えを書き留め、それを分析してください。そして、必要な調整をしてください。

第一のものを第一にしてください。』（「第一のものを第一に」『リアホナ』2001年7月号、9参照）■





イエスの言葉

ゆるし 赦し

「ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。」(ルカ6:37)



わたしたちが天の王に
大きな債務を負っている
という理解は、
悔い改めと赦しという
たまもの
賜への門を開きます。

七十人会長会
セシル・O・サミュエルソン・ジュニア

救い主はわたしたち一人一人が主の平安を感じるように望んでおられます。主はこう言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27) 混乱した現代にあって、よく知られた賛美歌はこのようにわたしたちを元気づけてくれます。

福音は、真理を求める心に平安をもたらし、その翼に輝く光は、人の思いを照らす。¹

心配事は多く、心配する理由もたくさんあります。しかし、スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)が述べたように、平安と救い主の赦しの教義は分かれ難く結びついています。「赦しの……真髄は、以前には不安と動揺と焦燥と、恐らくは激しい苦悩とを味わっていた魂に、平安をもたらすことである。」²

ルカは救い主の生活から、わたしたちが主の赦しを受けるときに与えられる平安がどのようなものかを示す物語を記しています(ルカ7:36-50参照)。イエスはパリサイ人シモンの家へ夕食に招かれました。罪人とされていた女が、イエスが家にいらっしゃることを知り、香油を持って来ました。イエスがいすに

ゆったりと座って食卓から足を伸ばしておられると、後ろから女が近づき、自分の流した涙でイエスの足を洗いました。そして、髪の毛で足をふき、足に接吻をして、香油を注ぎ、優しく塗りました。イエスが罪人からこのような親切な行為を受けるのを見た家の主人は、イエスを非難しました。イエスは彼の思いに気づき、彼を叱責しようと、赦しの教義に関する主の最も厳しい教えの一つをお授けになりました。

主は、二人の負債者を抱える債権者の話をしました。一人の負債者はもう一人の負債者の10倍の負債を持っていました。二人とも、負債を払うお金も資産もありませんでした。そこで、債権者は二人の負債を免除してあげました。救い主は尋ねました。「このふたりの〔負債者の〕うちで、どちらが〔債権者〕を多く愛するだろうか。」(ルカ7:42) より多くの負債を持っている者の方がより多く愛するだろうというシモンの答えは正しい答えでした。

するとイエスは、客に対する配慮ともてなしに欠けたシモンの行為をその女の行為と比較されました。主はシモンに、その話の中の少ない負債を持った者を自分自身に、多くの負債を持った者を女に見立てるように望まれました。そして、このように述べて、要点を強調されました。「それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。」(ルカ7:47)



左—「会堂におけるキリスト」の一部、ギユスターフ・ドレ画 右—この女を見ないが、クリスタル・ハウター画

それからイエスは女の方に向き、彼女の目を見詰めて主の平安を与え、こう言われました。「あなたの罪はゆるされた。……あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」(ルカ7:48, 50)

この女性がどのような状況で罪を犯したのか、わたしたちには分かりませんが、そのとき彼女が感じたに違いない感謝と喜び、平安を想像することができます。

キリストにおける平安

わたしたちは救い主に、この世の知恵ではなく、平安と救いを求めなくてはなりません。皆さんは、足がまひした中風の男の話覚えておられるでしょう(マタイ9:1-8, マルコ2:1-12, ルカ5:17-26参照)。

救い主はカペナウムのある家で教えておられました。家は人でいっぱいになり、中に入れない人もいました。4人の男が足の不自由な友人を担架に載せて運んで来ました。イエ

スに癒^{いよ}していただくと思ったのです。家の入り口は人でいっぱいだったので、男たちは友人を屋根に上げ、そこに穴を開けて、病人をイエスのおられる部屋の中へゆっくりとつり下げました。イエスはこのようにして話を遮れたことを怒らずに、彼らの信仰に心を動かされました。そして病人に向かって大胆に皆の前でこう言われました。「子よ、しっかりなさい。あなたの罪はゆるされたのだ。」(マタイ9:2)そして、もうこれからは罪を犯さないようにと勧告されました(ジョセフ・スミス訳マタイ9:2[英文]参照)。

その男がまだ横たわっていると、律法学者とパリサイ人はイエスが冒瀆の罪(『聖句ガイド』「冒瀆」の項, 240)を犯した、と心の中で思いました。すると主は、病人を癒すよりも罪人を赦す方がより多くの力を必要とするのではないかと尋ね(ジョセフ・スミス訳ルカ5:23参照)、彼らの不信仰に毅然^{きぜん}とした態度を執られました。救い主がそう言われたのは、

イ エスは、^{ゆる}救いの教義に関する主の最も厳しい教えの一つを授け、こう言われました。「この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。」

聞いている人々が「人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていること[を]……わかるため」でした(マタイ9:6。ジョセフ・スミス訳マタイ9:6[英文]参照)。

それからイエスは、中風の人に向かってこう宣言されました。「起きよ、床を取りあげて家に帰れ。」(マルコ2:11)すると、彼はすぐに立ち上がり、命じられたとおりにしました。不平を漏らしたり批判したりしていた者たちは、歴然とした奇跡とその明らかな意味に反駁(はんぱく)することができませんでした。それは、イエスが罪を赦す力を持っておられ、わたしたちの罪が主の力によって真に赦されたことを知ると励ましと平安がもたらされるという意味です。

人を赦す

人から嫌な目に遭わせられたり、害を被ったりした際にどうすべきかを主が弟子たちに教えられたとき(マタイ18:15-35参照)、それは彼らにとって新しい教義のように思えました。「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。」(マタイ18:15)人を赦すことについての救い主の言葉は、彼らの態度を大きく変えるように求めました。彼らは「目には目を」という考え方を教え込まれていました(マタイ5:38。レビ24:20参照)。ペテロは新しい教えの意味を確実に理解したかどうか確かめようとして、尋ねました。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。7たびまでですか。」(マタイ18:21)恐らくペテロは、罪を解決するには、罪を犯した人が最初に行動すべきであり、罪を受けた人は2度または3度だけ赦すべきであるというモーセの律法の教えを知っていたのでしょう。³

イエスははっきりと答えられました。「わたしは7たびまでとは言わない。7たびを70倍するまでにしなさい。」(マタイ18:22)つまり、回数であろうと何であろうと、人を赦すことについては、何の制約もあってはならないのです。

それから救い主は弟子たちに、すべての人を赦さなくてはならないという教えをさらによく理解し、心に留め、応用することができるように、一つのたとえを話されました(マタイ18:23-32参照)。僕たちにお金を貸した王が借金を清算する話です。最初の僕は1万タラント、すなわち現代のお金に換算すると何百万ドルにも相当するお金を借りました。僕は負債を返すことができなかったので、王はその僕と家族を奴隷として売るように命じました。窮地に追い込まれた僕は、

必ず返済するからもう少し待ってくれるよう嘆願しました。僕の誠実さに心を動かされた王は、哀れみの気持ちから多額の負債を免除してやりました。そこで僕は地に伏して王を拝みました。

ところが、王の大きな慈悲と赦しを受けたばかりのこの僕は、数ドルにも相当しないとされる100ペンスを貸した仲間の僕をすぐに探しに出かけました。そして、即刻返済するよう乱暴に要求したのです。仲間の僕はもう少し待ってくれるよう嘆願しましたが、お金を貸した僕は王から無償で受けた哀れみを施そうとはしませんでした。そして負債を返済するまで、仲間を獄に投げ込んでしまいました。この無情な行為を見たほかの僕たちが、事の次第を王に報告しました。「そして[王]は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。」そして、イエスはこのように付け加えられました。「あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう。」(マタイ18:34-35)

自分を主の弟子であると考えたい人は、わたしたちはこの最初の僕のように、天の王から受けている多くの賜物(たまもの)に対して、天の王に大きな債務を負っていることを理解する必要があります。このような理解は、悔い改めと自分自身の赦しという賜物への門を開きます。このような賜物を頂けるかどうかは、わたしたちに害を与えた人を心から赦すか否かにかかっています。救い主は、「あわれみ深い人たちは、さいわいである。彼らはあわれみを受けるであろう。」(マタイ5:7)、そして「あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ……るであろう」と言われました(マタイ7:2)。

しかし、人を赦すことは、必ずしも罪の行為を是認または承認するという意味ではありません。実際、明確な断罪に値する行為や態度が多くあります。しかし、こうした場合でさえ、罪を犯した人を完全に赦さなくてはなりません。「ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。」(ルカ6:37)

一つの例外を除くすべての罪

主が「聖霊を汚す」と述べられたものを除いて(マタイ12:31。マルコ3:28-29も参照)、わたしたちのすべての罪は、悔い改めを条件として、主の神聖な贖いの犠牲により赦されることを救い主は非常に明確にされました。預言者ジョセフ・スミスはこの問題についてこのように教えました。「イエスは、滅びの子を除くすべての者を救われます。赦されな

い罪を犯すとは、何をする事なのでしょう。それは、聖霊を受け、天が自分に開かれ、神を知った後に、神を背くことです。』⁴

このように贖い主は、わたしたちが悔い改めるとき、「すべての罪〔は〕ゆるされる」と確約しておられます(マルコ3:28)。救い主の使命は、悔い改めを説くことだからです(ジョセフ・スミス訳マルコ3:22〔英文〕参照。モーサヤ26:29-30も参照)。

赦しの賜物

救い主は弟子たちに、別々の機会に2度、神に対する罪や負債が赦されるように祈らなくてはならないと教えられました。わたしたちは自分に対して罪を犯した人を赦すことによって、赦されるように祈ったことが偽りではないことを実際に示さなくてはなりません。主はこう祈るように教えられました。「わたしたちに〔罪を犯して〕負債のある者を〔わたしたちが〕ゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。』(マタイ6:12)、また、「わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください。』(ルカ11:4) 赦しを求める嘆願は、わたしたちのすべての罪を悔い改める努力と切り離すことができないことを、この教えは示しています。

わたしたちが赦し、また赦しを求めるときに常に認識しておかなければならないのは、どのような賠償を与えたり受けたりできたとしても、わたしたちの努力も相手の努力も、永遠の正義の要求を満たすことはとうてい不十分だということです。だとすると、真の赦しはどのようにして可能になるのでしょうか。パウロは、エペソ人への手紙の中で、キリストにあって「わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである」と書いています(エペソ1:7)。

赦しの賜物から生じる祝福はたくさんあり



病人の友人たちが病人をイエスのおられる部屋の中へつり下げたとき、救い主は大胆に「しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と宣言し、罪を赦す力を持っていることを聴衆に教えられました。

ます。その中でいちばん大きなものの一つは平安です。救い主はわたしたち一人一人が主の平安を感じるように願っておられます。主はこのように言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。』(ヨハネ14:27) わたしたちが人に与える赦しと、わたしたち自身がイエス・キリストから受ける赦しは、わたしたちを主のもとへ導き、永遠の命への道を示してくれます。■

注

- 1.『賛美歌』(英文)14番
- 2.『赦しの奇跡』364
3. ジェームズ・E・タルメージ「兄弟とわたし」『キリスト・イエス』384-385参照
4. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 358

人知れず 育つ 種 のたとえ



地域幹部七十人
ウィルフレッド・R・ロベス

救い主のたとえの中で、
種まきは信仰をもって
種をまき、
喜びをもって
刈り入れています。

わたしの祖父は農夫でした。わたしは幼いころ、種まきの時期になると、祖父と一緒に野良仕事に出かけたものです。祖父が家畜の用意をするのを見るのが大好きでした。家畜に首かせをはめ、農具につなぎます。「今日はどこに種をまくの?」とわたしはよく尋ねました。すると祖父は「あそこさ」と答えました。どの土地が肥えているか、祖父にはよく分かっていたのです。

鋤の歯が土を割くとき、地面から湿った匂いが立ち込めます。その強い匂いがわたしは好きでした。祖父が作った溝に、わたしが種をまいて土をかけます。「この土地なら豊作だ」と祖父はよく言っていました。少したってから畑に来てみると、緑色の子葉が出ています。柔らかい苗は間もなく太い茎となり、やがては実をつけます。穀物は生育し続け、成熟するのです。

収穫の時期が来ると、農夫たちは穀物の穂を刈り取り、束ねて脱穀場に運びます。脱穀



場といっても、棒を大きな輪になるように立てて針金でつなぎ合わせたものがあるだけなのですが、農夫たちはこの円形の柵の周りに穀物の束を置きます。全部置いてしまうと馬をこの広場に連れて来て柵の周りを走らせるのです。馬は穀物の刈束を踏みつけ、茎から実を落とします。このとき穀も砕けてしまいます。それが済むと、農夫たちはふいごを持って来てもみ穀を吹き飛ばし、穀物を選び分けます。こうして収穫を終えると、農夫たちは歌い、踊り、子羊の焼き肉という昔ながらの料理を楽



しました。田舎のすばらしいお祭りでした。穀物は麻袋に入れて蓄えられ、後に様々な製品に加工されて人々に消費されました。

しかし、種まきから収穫までこれほど手をかけているにもかかわらず、この全工程が成功に終わるかどうかはおおむね土地の肥沃度^{ひよく}、天候など、人間の手には負えない条件にかかっています。これらの条件がそろわなければ、種が発芽することはなく、したがって収穫もないのです。

救い主が語られたたとえ

イエスがガリラヤで教導の業に就いておられたとき、大勢

の群衆がイエスの話を聞こうと海辺に集まって来ました。イエスは群衆に種まきの話をされました。種まきが石地、いばらの地、肥えた地にそれぞれ種をまきましたが、種をまいた土地によって、結んだ実の量は違いました。

イエスは続けてもう一つ、たとえを語られました。これはマルコの証^{あかし}の中にだけ記録されているのですが、イエスはこのたとえで、植物を生長させるものは何かに焦点を当てておられます。イエスは言われました。

「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。

夜昼、寝起きしている間に、種は……育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。

地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。

実があると、すぐにかまを入れる。刈入れ時がきたからである。」(マルコ4:26-29)

このたとえの中で、種まきは信仰をもって種をまき、喜びをもって刈り入れています。一度種をまいてしまった後、ある日目を覚ましてみたら種は生長して実ができているのです。肥沃な土と太陽、雨、風、露など、自分の力ではどうにもできないものが相まって働き、葉が伸びて穂が出るのだということを種まきは知ります。¹



霊的な成長

このたとえから大切な教訓を学び取ることができるのは、わたしたち教師です。ここで言う教師とは、家庭や教会のクラスで教えている人、または伝道活動に携わっている人などを指します。教える人々の心と思いにまかれた福音の種が芽を出し、満開の花を咲かせるかどうかは、わたしたちの力の及ばない要因にかかっているのです。個人には選択の自由がありますから、深く考えて福音の真理を受け入れるかどうかを決めるのは、わたしたちが教えている人々自身です。もしもその証が育ち、成熟した実をつけるならば、つまり改心するならば、その収穫の裏には第一に神の力があつたに違いないのです。聖なる御霊に導かれて、わたしたちが教育に携わった人々が成長し、実をつけているのだと言えるでしょう。わたしたちは権能を受けた種まきなのですから、次のことを理解し、信じる必要があります。つまり、回復されたイエス・キリストの福音は生ける種であり、わたしたちがそれを教えるならば、神の恵みが教えを受ける人に注がれ、生徒は成長して霊的に成熟し、良き業を行うよ

うになるということです。そして収穫の日に、わたしたちは喜びに満たされるのです。

チリの首都サンティアゴのインデペンデンシアワードで伝道主任をしていたとき、わたしたちは新しく改宗した人々の生活に御霊の影響力を招くことに焦点を絞りました。そのころワードに集っていた人々の中からチリの偉大な神権指導者が何人も生まれました。ステーク会長が7人、伝道部長が2人、地区代表が2人、神隊長会に召された人が1人、それぞれ出ますし、さらに、非常に多くの人々が監督に召されました。

なぜ、このように大きな収穫が得られたのでしょうか。この収穫は土が肥えていたためにもたらされました。収穫は神が下さったのです。ですから、わたしの喜びは「地はおのずから実を結ばせるもの」であることを知ることから来ています(マルコ4:28)。わたしの好きな次の賛美歌の歌詞は、「主のために種をまくときわたしたちは一人ではない」ということを思い出させてくれます。そうです。わたしたちが福音の真理という貴い種をまくとき、確かに神の助けを受けることができるのです。

**回復された
イエス・キリストの福音は生ける種であり、わたしたちがそれを教えるならば、神の恵みが教えを受ける人に注がれます。**

弱きわれのみに まかせたもうな
天使にその畑 守らせたまえ
田畑は栄えて 実る穂に満ち
永遠の生命の実 結ばせたまえ² ■

ウィルフレッド・R・ロベス長老は、チリ地区で奉仕する地域幹部七十人です。

注

1. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』283参照
2. 「日々によき種と」『賛美歌』133番

奴隷に ならないで



気をつけて！
この世のものを手に入れば入れるほど、
この世の奴隷になってしまいます
(マタイ6：19-21参照)。

モルモン

セ ミナリーを通して、モルモン書はずっと読みやすく、そして理解しやすくなりました。わたしはすぐに、この書物が真実であるという個人的な証を得たのです。

午前4時半に起きてセミナーに出席するのです。わたしはまだ教会員でもありませんでした。しかし、セミナーを通して失うものは何もなく、反対に非常に多くのものを得たのです。

アイザック・コフィ・モリソン

17 歳のとき、わたしは家を出て、学費を援助してくれていたおじとおばのもとで暮らすことになりました。ガーナのセコンディにある二人の家に着いたとき、わたしはすぐに、この家族の不思議なところに気がつきました。おじたちは朝晩ともに祈り、月曜日の夕べには家族の集いを行っていたのです。その集いを通して、家族一人一人が自分は愛され、感謝されていると感じているようでした。わたしはほかの宗教の活発な会員であったにもかかわらず、おじたちの宗教について知りたいと思うようになりました。

おじのサーフォに教会について尋ねると、教会の教えについてたくさん説明してくれました。信じた教えもありましたが、理解できないものもありました。


次におじは、わたしが福音を学べるように宣教師に依頼し、わたしは6課すべての福音レッスンを受け

ました。しかし、宣教師がバプテスマを受けるように勧めたときには、モルモン書に対する証がなかったため、断りました。モルモン書は読むのも理解するのも難しい本でした。

わたしはおばのエベリンとおじのサーフォを喜ばすために、聖餐会せいさんかいに出席す



グーコー



るようになっていました。そこで二人はわたしに、2週間後に始まる早朝セミナーに登録するよう勧めたのです。

わたしにとって、午前4時半に目を覚ますことは簡単なことではありませんでした。しかし、セミナー教師のソロモン・アグボがわたしに会いに来て、出席するよう励ましてくれました。わたしのことをすでに気にかけてくれているようでした。わたしはセミナーに行くことに決めました。そして、決心したからには一日も休まないと心に誓ったのです。コースの課題はモルモン書だったので、モルモン書の証が得られるか試してみたいと思いました。

セミナーでモルモン書を学び始めると、十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老(1807-1857年)が初めてモルモン書と出会ったときと同じ気持ちを味わいました。プラット長老は次のように記しています。「わたしは心を弾ませながら本を開き、タイトルページを読んだ。それからその発見と翻訳に関する数人の証を読んだ。その後で順に内容を読んでいった。わたしは一日中読み続けた。食事でも煩わしかった。食欲がなかったのだ。夜になると眠ることさえおっくうだった。眠るよりも読み続けたいと思ったからである。」(Autobiography of Parle P. Pratty [1985年], 18)

読み進める中で、主の御霊^{みたま}が、モルモン書は確かにイエス・キリストのもう一つの証であることを証してくれました。セミナーを通して、モルモン書は大変に読みやすくなりました。難しく理解できないときはいつでも教師が助けてくれました。わたしはモルモン書が「この世で最も正確な書物であり、……人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」という証を得ました(ジョセフ・スミス、Teaching of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールデング・スミス選[1976年], 194)。

わたしは1995年3月5日にバプテスマを受けました。そして21歳になるころには自分自身がセミナーの教師となっていました。人生を変えたこの書物が神聖であり、真実であることをほかの人々が知ることができるように助けていたのです。

アイザック・コフィ・モリソンはナイジェリア・ウヨ伝道部の専任宣教師です。

3つの たとえ

愚かな蜂, 夜行特急, 二つのランプ

十二使徒定員会

ジェームズ・E・タルメージ (1862-1933年)



ジェームズ・E・タルメージ長老自身の経験に基づく3つの話から、わたしたちは主の御心に信頼することを学べます。

タルメージ長老は22年間にわたって使徒として働き、教会のために2冊の書物、『キリスト・イエス』『信仰箇条の研究』(The Articles of Faith) を著しました。これらの書物は今日においても広く用いられています。タルメージ長老はさらに、1914年1月初めに福音の原則を教えてくれる個人的な経験を基にしたたとえや話をシリーズで出版しました。それらの話の中から選りすぐりのものを以下に3つ紹介します。

愚かな蜂のたとえ

時々、自分のゆったりとした事務所やくつろげる書斎ではなく、一人静かになれる場所で仕事をしなければならないことがあります。そのようなとき、わたしはいつも町のざわめきや騒音から離れた、神殿の最上階の一室を使用しました。その部屋は簡単に入りができないため、あまり邪魔されることもありません。そのような部屋で、わたしは時間のたつのも忘れて、一心不乱にペンを走らせるのです。

それでも訪問者がまったくくないというわけではありません。特に夏には、窓を開けて仕事をしていると時々虫が飛び込んでくるのです。このような不意の来訪者をわたしはいつも歓迎しました。仕事のことを忘れ、ペンを置いてこうした羽のある訪問者の動きを興味深く眺めることが何度もありました。その時間を無駄だと思ったことは一度もありません。感受性の強い人が、ちょうやかぶと虫、そして

蜂からも何かを学び取ることができるというのはほんとうのようです。

あるとき、近くの丘から1匹の蜂が部屋に迷い込んできました。わたしは1時間以上もその蜂の飛び回る愉快的な音を聞いていました。そのうち、この小さな蜂は自分が閉じ込められたことに気づき、半開きの窓を見つけようとしたのですが、結局脱出できずにいました。部屋の戸締りをして帰る時間になったので、わたしは窓を大きく開けて、蜂を誘導して何とか自由にしてあげようと思いました。そのまま放置すれば、この部屋に迷い込んだほかの虫のように乾いた空気の中で間違いなく死んでしまうからです。しかし、追い出そうとすればするほど、この蜂はますます抵抗しようとしてきました。静かな蜂の羽音は、次第に大きくなり、その素早い動きは攻撃的になり、敵意を示し始めました。

やがてわたしはちょっと油断した透きに、蜂に手を刺されてしまいました。蜂を自由にしようとしていた手を刺されたのです。そして蜂はわたしの手の届かない天井の飾りに止まり、どうすることもできなくなりました。わたしは切れるような手の痛みに怒りよりもむしろ哀れみを覚えました。誤った抵抗がどのような報いをもたらすか知っていたからです。わたしは蜂をそのままにするしかありませんでした。3日後に部屋に戻ってみると、机の上に乾き切った蜂の死骸がありました。かたくなな態度を死によって償わなければならなかったのです。

浅はかで、身勝手な誤解をしていたこの蜂にとって、わたしは敵であり、執拗な迫害者でした。命をつけねらう人間だと考えていたかもしれません。しかし実際は友であり、自らの過ちが招いた罰から生命を開放しようとしていたのです。死の獄舎から救い出し、自由の外気に連れ戻そうとしていたのです。

わたしたちは蜂よりもずっと賢いのでしょうか。わたしたちの生活はこの愚かな蜂の生涯とはまったく違うと言えるのでしょうか。わたしたちは艱難に直面するとき、感情や怒りに任せて論争に走ることがあります。しかし、その艱難は至高者の知恵と愛の現れであったり、わたしたちが永遠の祝福にあずかれるよう、一時的な慰めとは逆の方向に導くものであったりするのです。この世で受ける艱難や苦しみには、信仰の薄い人が完全に理解することのできない聖なる教えが含まれています。多くの人が、富を失うことで祝福を得てきました。また、利己的な放縦のとりこから解放され、日の当た

る自由の地へと導かれることで益されてきたのです。そこでは、努力することで無限の機会が与えられるのです。落胆や悲しみ、そして苦しみは全能なる御父が示される愛の表現でもあるのです。

愚かな蜂の教訓について考えてみましょう。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5, 6)

夜行特急のたとえ

大学時代、わたしは地質学の規定コースの一部として、実地調査の割り当てを受けました。地質学とは、地球の様々な局面、特に地球を構成する岩石とその構造的特徴、および過去現在における岩石の変化について研究する、地球の歴史に関する学問です。

ある割り当てを受けたときに、現地で何日間も釘づけにな

浅はかで、身勝手な誤解をしていたこの蜂にとって、わたしは敵でした。しかし実際は友であり、罰から生命を開放しようとしていたのです。

ったことがありました。わたしたちは何マイルも続く低地や高地、谷や丘、高山や険しい谷間を抜け、調査し、図表を作成しました。調査期間も終わりに近づいたとき、わたしたちは暴風に見舞われました。そして予期せぬことに季節外れの大雪となったのです。雪は次第に激しさを増し、雪山で身動きが取れなくなる恐れが出てきました。嵐の猛威が頂点に達する中、わたしたちは長く険しい山の斜面を小さな鉄道駅に向かって何マイルも降りて行きました。鉄道駅で夜行列車に乗り家路に着けるよう願っていたのです。わたしたちは大変な苦勞をして、その夜遅く駅にたどり着きました。嵐はまだ猛威を振るっており、突き刺すような風と吹き荒れる雪により極度の寒さに見舞われました。さらに事態を悪くしたのは、雪の吹きだまりにより、その小さな駅から数マイル離れた所で、わたしたちが到着を待っていた列車が立ち往生している

ということでした。

……わたしたちが期待と希望を胸に到着を待っていたその列車は、都市間を結ぶ夜間の急行列車、つまり夜行特急でした。この特急はスケジュールによると、ほんの少しの主要な駅にしか停車しないことになっていましたが、機関車に水を補給するためにこの小さな駅に停車しなければならないことをわたしたちは知っていました。

夜もかなりふけたころ、この列車は激しく風雪を巻き上げて到着しました。同僚たちがせき立てられるように乗車する中、わたしはその場にたたずんでいました。機関士に興味を覚えたからです。助手は水の補給作業を行っていましたが、この機関士は短い停車時間に、エンジンの点検に大わらわで、数か所に油を注ぎ、そのほかの箇所を調節していました。それまでの長旅と悪天候であえぐように蒸気を吹き出す機関車を徹底的に点検していたのです。忙しいのは分かっていましたが、わたしはあえてこの機関士に話しかけました。荒



れ狂い、不気味で、恐ろしく、破壊の力が解き放たれ、猛威を振るっているように思われる夜、また嵐が吹き荒れ、四方八方から危険が差し迫っている夜にはどのような気持ちができるのかと尋ねたのです。わたしはいろいろな可能性について考えました。雪の吹きだまりや雪崩で線路がふさがれることもあるでしょうし、陸橋の足組みが嵐のせいで緩んでしまうこともあるでしょう。また山肌から岩の塊が転げ落ちてくる可能性もあるのです。このほかに、考えられる様々な障害について思い巡らしました。わたしは、障害物や線路の損壊による事故で最も大きな危険にさらされるのは、機関士とその助手であることに気づきました。激しい衝突によって命を失う可能性も十分にあるのです。そのような自分の思いのすべてを言葉に託して、せわしく働く気短そうな機関士に追い立てられるような思いで質問しました。

要するに機関士はこう答えたのです。「列車のヘッドライトを見てごらん。100ヤード以上先まで、線路を照らし出してくれるだろう。わたしは、ただ100ヤード単位で照らし出される線路を走り抜けようとしているだけさ。それだけは見ることができる、そして少なくともその区間は線路に何も障害がなくて安全だということが分かるからね。」

機関士の答えは今でも忘れられない教訓となりました。途切れ途切れで、支離滅裂な文章でしたが、要するに彼はこう答えたのです。「列車のヘッドライトを見てごらん。100ヤード(90メートル)以上先まで、線路を照らし出してくれるだろう。わたしは、ただ100ヤード単位で照らし出される線路を走り抜けようとしているだけさ。それだけは見ることができる、そして少なくともその区間は線路に何も障害がなくて安全だということが分かるからね。」悪天候の中、明かりでかすかに照らし出された嵐の夜を覆う暗闇の中でわたしが見たのは、唇にちゃめつけたっぷりのほほえみを浮かべ、目を明るく輝かせる機関士の顔でした。「それから」と言って、彼は次のように付け加えました。「まじめな話、神様のおかげだよ。これまで一度だって明かりで照らし出された100ヤード先を超えるほど速くこいつを運転できなかったことがないからね。列車の明かりがいつも自分の前を走ってくれるのさ。」

彼は持ち場の機関士室によじ登りました。わたしは急いで第1号車に乗り込み、クッションのよく利いた座席に深々と腰を下しました。窓の外の荒れ狂う夜とはまったく対照的に、心暖まる至福の思いと全身の安らぎを感じつつ、すすと油にまみれた機関士の言葉について深く思い巡らしました。機関士たちは信仰に満ちあふれていました。それは偉業を成し遂げる信仰であり、勇気と決意を与える信仰、務めを果たすための信仰なのです。もし、迫り来る危険を前にして、機関士が職務を怠ったり、恐怖や不安に打ち勝つことができず、先に進むことを拒んでいたりしたらどうなっていたでしょうか。もし機関士がひるみ、おじけづいていたら、働きは妨げられ、偉大な計画は無に帰し、^{あわ}憐れみと平安をもたらす神の定められた務めはくじかれたことでしょう。

わずかな距離ではありましたが、吹雪に包まれた線路は明かりで照らし出されました。その短い距離を機関士は走り続けたのです。

数年後、あるいは数日、数時間のうちにどのような出来事が起こるか、わたしたちには知る由もありません。しかしながら、何ヤードだけ、あるいはひょっとしたらたったの何フィートだけかもしれませんが、道は明るく照らし出されています。また、わたしたちの義務は明白で、行く手は明るく照らし出されています。その短い距離、そしてまた次の短い距離と、神の

靈感によって明るく照らし出された道を走り続けるのです。

二つのランプのたとえ

思い出の品々の中に一つのランプがあります。このランプを見るときに、楽しかった日々や人々とのすばらしい交流を思い出します。……

このランプは、学生時代に愛用していた読書用ランプで、同種類のランプの中では最上級のものでした。わたしは苦労して稼いだお金でこのランプ購入しました。このランプはわたしが最も大切にしていた秘蔵の品の一つでした。……

ある夏の夕方、わたしは自分が下宿し勉強に使っていた部屋の外の広間に座り、真剣に、しかし静かに瞑想していました。そんな折り、一人の見知らぬ人が近づいて来ました。よく見ると、肩からかばんを下げていました。彼は気さくで、愉快的な男性でした。わたしは部屋の中からいすを1脚持って来て、わたしたちはともに雑談をしました。辺りは次第に薄暗くなり、そして夜になりました。

その男性はこう言いました。「あなたは学生だから、きっと夜にやらなくてはならない宿題が山ほどあるでしょう。どん

なランプを使っているのですか。」答えを待つまでもなく、彼は話し続けました。「あなたに見せたいすばらしいランプがあるんです。最近の応用科学の発展によって設計製作されたランプで、人工的な照明の手段としてはこれまでに作られたどんなランプも比較にならないほど優れた代物です。」

わたしは自信たっぷりに答えました。実を言うと、少しばかり勝ち誇っていたのです。「ランプなら持っていますよ。これまで使ってきて、すばらしいことは実証済みのランプです。たくさんの長い夜をともに過ごしてきた友人のようなランプですよ。アルガンランプで、最上級品の一つです。今日、芯の手入れをして、きれいにしたばかりですから、明かりを灯す準備はできていますよ。どうぞ中に入ってください。わたしのランプをお見せしましょう。あなたのランプの方が恐らく優れていると言われるかもしれませんが。」



二人でわたしの勉強部屋に入りました。かわいそうなくらい弱い相手と今まさに競争を始めんとする運動選手の気持ちに似たものがありました。わたしは手入れの行き届いたアルガンランプに明かりをつけました。

その訪問者は褒め言葉を並べ立てました。この種のランプでは最高のものだと言ってくれました。またこれほど手入れの行き届いたランプを見たことがないとも言ってくれました。彼は明かりを強くしたり弱くしたりして、調節の具合も完全だと言ってくれました。またこれほどまでに申し分のない働きが読書用ランプにできるとは思いも寄らなかったと断言したのです。

わたしはこの男性が気に入りました。わたしの目には賢い人に映りましたし、人に好感を与える人物であることは確かでした。その当時よく使われていた表現を自分の言葉で言い換えながら、「わたしを気に入るなら、わたしのランプも気に入って」と心の中でつぶやいていました。

「さて」とこの男性は言いました。「もしよろしければ、わたしのランプもつけさせてください。」彼はカバンの中から、当時「ロチェスター」という名で知られていたランプを取り出しました。そのランプのほやはわたしのランプに比べると、民家の小さな煙突と工場の煙突ほどの違いがありました。その芯の幅はわたしの指が4本入ってしまうほどでした。その明かりはわたしの部屋のいちばん隅まで明るく照らしてくれました。その赤々と輝く炎に対して、わたしの小さなアルガンの芯には弱々しく、薄黄色の炎が揺らめいていました。その説得力のある実演を見るまで、わたしは自分がどれほど薄暗い環境の中で生活し、骨を折り、悪戦苦闘しながら学んでいたか知りませんでした。

「そのランプを売ってください」とわたしは言いました。「説明や議論の必要はありません。」わたしはその夜、新しく手に入れたランプの性能を確かめようと研究室に持って行きました。ランプをつけると48燭以上の明るさでした。わたしのランプのまさに4倍の明るさだったのです。

ロチェスターの赤々と輝く炎に対して、わたしの小さなアルガンの芯には弱々しく、薄黄色の炎が揺らめいていました。その説得力のある実演を見るまで、わたしは自分がどれほど薄暗い環境の中で生活し、骨を折り、悪戦苦闘しながら学んでいたか知りませんでした。

ランプを購入してから2日後、わたしは昼食時に街であのランプの行商人に会いました。ランプの売れ行きについて尋ねると、よく売れて、ランプの需要に工場の供給が追いつかないという答えが帰ってきました。「でも、今日は働かないんですか」とわたしは尋ねました。その行商人の答えからわたしは教訓を学びました。「真っ昼間から街を練り歩いてランプを売るようなことをすると思いますか。日中にランプをつけていたとしたら、あのランプ買っていませんか。わたしは自分のランプがあなたのよりも優れていることを知ってもらうためにあの時間を選んだのです。だからこそ、あなたはわたしが差し出したより優れたランプを自分のものにしたくなったのでしょうか。違いますか。」

話は以上です。さて、この話の一部分、ほんの一部分ですが、応用の仕方を考えてみましょう。

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」〔マタイ5：16〕

ランプを売ろうとした男性は、わたしのランプをけなしませんでした。わたしのランプの薄暗い炎の横に、自分のランプのより明るい光を置いたのです。その結果、わたしは即座に良い方を選んだのでした。

末日聖徒イエス・キリスト教会から宣教師たちは、人々の信仰を非難したり、あざけったりするために派遣されているではありません。世の人々の前により明るい光を輝かせることで、人の信条という揺れ動くすんだ炎を明るくするのです。教会の御業は建設的なものであり、破壊的なものではないのです。

このたとえのより深い意味については、見る目があり、理解する心のある者には見え、理解できるということです。■

Improvement Era, 1914年9月号, 1008-1009; 1914年1月号, 256-258; 1914年7月, 807-809. [英文の]句読点およびつづりは現代の書式に合わせてある。

イエス・キリストの特別な証人

アイリーン・コインブラ・デ・オリベイラ・クラウディオ

地区大会の開かれる巨大なスタジアムに入ったとき、美しく飾られた花が目に入りましたが、それよりもっと印象的だったのは、敬虔な静けさの中で開会を待っている大勢の人々でした。何もかも申し分なさそうでした。わたしは席を見つけて座り、静かに待ちながら、細かなこと一つ一つに感心していました。

最近改宗したわたしにとって、初めて経験する地区大会でした。わたしはブラジルのこの地区全体から集まった聖徒たちと一緒に礼拝し、歌うのを待ち焦がれていました。しかしそれ以上に待ち望んでいたのは、初めて使徒に会って直接話を聞くことでした。訪問する中央幹部のジェフリー・R・ホランド長老は、どのような人なのでしょう。十二使徒定員会の会員は、教会内や教会外のほかの指導者と違って見えるのでしょうか。ホランド長老はほんとうにイエス・キリストの特別な証人なのでしょう。

大会に出かける前に、教会の会員ではない夫から皮肉っぽくこう言われました。「それじゃ、君はイエス・キリストの使徒の話の聞きに行くんだ。彼は聖人かい？」

わたしは答えました。「分からないわ、帰ったら話すわ。」

わたしはあれこれ考えながらホランド長老の到着を待っていました。これから会う人がほんとうにイエス・キリストの使徒であるという証を得たいという思いが募りました。そこで、帰宅して今日の経験を夫に話すときにどのように話せばよいか分かるよう、天の御父に祈り求めました。

地元の指導者と中央幹部が会場に入ってきたとき、わたしはどの人が使徒なのか見分けがつきませんでした。外見からほかの人と区別できるようなものは何もありません。ようやくだれがホランド長老か分かりましたが、ほかの人とどこが違うのか分かりませんでした。

開会の賛美歌と祈り、そして地元の指導者たちの話が続いて、使徒の伴侶であるパトリシア・T・ホランド姉妹が紹介されました。通訳者がついていましたが、わたしは姉妹自身の言葉を理解していると感じました。ホランド姉妹がわたしたちの耳に語りかけるだけでなく、心に語りかけていたからです。

姉妹の話に続いて、ホランド長老が説教壇に立ちました。長老が話し始めたとき、わたしは彼の言葉がまったく普通の人と変わらないことに驚きました。しかし、話を聞くうちに、この人が真に主の代理人であり、その言葉が真実であるということが心の中に証明されていくのを感じました。わたしはイエス・キリストについて考えました。主もほかの人と同じような外見をされていましたが、世の救い主という崇高な使命を持っておられました。ホランド長老は話の最後で証を述べました。「イエス・キリストは生きておられます。この教会は主の真の教会です。」ホランド長老が主の御名によって語るよう任命されており、確かに主の使徒の一人であるという証を、御霊によって受けることができました。

帰宅すると、夫が尋ねました。「それで、使徒はどんな人だった？」

「見かけは、まったく普通の人だった。」わたしは答えました。「でもね、中身は全然違う——イエス・キリストの特別な証人だったわ。」■

アイリーン・コインブラ・デ・オリベイラ・クラウディオは、ブラジルのリベラウンプレートステーク、ジャルディム・インデペンデンシアワードの会員です。

使徒であるホランド長老の話を聞くうちに、この人が真に主の代理人であり、その言葉が真実であるということが心の中に証明されていくのを感じました。



疑いの余地はなかった

ギセツペ・マルチネンゴ

宣教師が「預言者ジョセフ・スミスの最初の示現」のフィルムストリップを見せてくれたとき、わたしは涙をこらえることができませんでした。真理を探求するジョセフ・スミスの物語は、いろいろな点でわたし自身と重なっていたからです。

その当時、わたしは20歳で、生まれ故郷のイタリアに住んでいました。それまで5年の間、わたしはある疑問に対する答えを探し求めていました。両親の宗教からは答えが得られなかったもので、ほかの宗教や哲学

の中に答えを求めてみました。しかし、どれも何かが欠けているように思えました。宣教師に出会う前の1年間は、その答えを見つけ出すことが生活の中で最も大切なことになっていました。友人たちから遠ざかり、通っている大学も中退しました。親戚からは理解してもらえませんでした。

そんな中、1984年の暮れに街頭で宣教師に出会ったとき、わたしは彼らに住所を教えていました。この教会についてほとんど何も知りませんでしたが、どういうわけか、宣教師たちと話したいと思ったのです。

数日後、自分の部屋で、神に心を開き、自分に対する御心みこころを示してくださるよう祈り求めていました。祈っている間、大きな平安に包まれている感じがしました。玄関のベルが鳴ったのは、まさにそのときでした。宣教師たちが入って来るのを見たとき、わたしが探し求めてきた答えを彼ら

が持っていることが分かりました。

2回目の訪問のとき、宣教師はわたしと母に、バプテスマを受けるようにチャレンジしました。母とわたしの反応はまったく違っていました。モルモン書をかなり読み、断食して祈ったわたしは、宣教師の教えていることが真実であるということすでに確信していました。ところが母の方には、バプテスマを受ける気が少しもなかったのです。

宣教師が帰ると、わたしは母から難しい選択を迫られました。もしバプテスマを受けるなら、ここから出て行けと言うのです。しかし、疑いの余地はありませんでした。何が正しいか、すでに知っていたのですから。その晩、わたしは家を出ました。



翌日、この問題を解決するために、宣教師と支部長とわたしは母に会いに行きました。次のレッスンのときに、わたしは母の要求を受け入れて、バプテスマを1か月待つことにしました。しかしそうしたのは、母に対する敬意からであり、わたしの願いが真心からのものであることを母に証明するためでした。

それから1か月間、宣教師はわたしたちを教え続けました。母は少しも変わりませんでした。そればかりか、母はわたしのバプテスマをさらに延ばしたいと思っていることが分かりました。しかし、わたしはもう待てませんでした。そして1985年2月15日に、わたしはバプテスマを受けました。その日は、それまでの人生で最高の日となりました。

母はわたしの決定に腹を立てていたのので、わたしはどうしたらよいのか分かりませんでした。支部長に相談してからともに祈ったとき、おじの家に一緒に住まわせてもらうように頼むべきだという靈感を受けました。

おじは、わたしが大学に戻ることを条件に承知してくれました。しかし、すぐにおじとの関係も悪くなってしまいました。おじは、わたしが教会に行くことも、宣教師を助けることも、よく思っていなかったのです。ついにおじは、わたしが地方部大会に出かけることを禁止しました。実はその大会でわたしはメルキゼデク神権を受けることになっていたのです。

宣 教師が「最初の示現」のフィルムストリップを見せてくれたとき、わたしは涙をこらえることができませんでした。それが真実であることが分かり、自分のなすべきことについて疑いの余地はありませんでした。

わたしは再び、平穏な生活と福音のいずれかを選択する羽目になりました。しかし、疑いの余地はありませんでした。その土曜日の朝早く、荷物をまとめ、おじの家に別れを告げました。

教会の会員であることは、容易なことではありません。しかし、家族からの援助なしに歩まねばならないわたしを、主は祝福してくださいました。最大の祝福の一つは、長老定員会から割り当てを受けてバプテスマを受けたばかりのある夫婦を訪問したときのことです。そこで彼らの娘のジョバンナに出会ったのです。

やがてジョバンナもバプテスマを受け、わたしたちは結婚することになりました。しかし挙式の当日に、結婚は認められないという正式の通知が届きました。母が結婚を差し止めようとしていたのです。それからの数か月間は、この問題を解決するのに苦労しましたが、わたしたちは無事結婚できました。今は美しい4人の子どもに恵まれています。

わたしたち家族は、つらい経験を幾つもしてきましたが、その経験によって証が強くなりました。主はわたしたちを豊かに祝福してくださいました。そしてわたしたちの人生を導き祝福するために、試練や苦難を与えられるのです。そのことに疑いの余地はありません。■

ギセツベ・マルチネンゴはユタ州オレム北ステーク、ティンパノガス第5ワードの会員です。

特別な テーブルクロス

フアン・アルド・レオーネ

副 伝道部長としての8年間という思い出深い歳月の終わりに、広大なアルゼンチン・コルドバ伝道部を巡回して帰って来たのは、1995年のことでした。わたしを迎えてくれたのは、ピラアリエンデ支部の支部長という新しい召しでした。以前に2度、別のユニットでその責任を受けたことがあります。いつものように、奉仕する機会を感謝して受け入れました。この新しい召しによって、アルゼンチンの中でも特に自分が住む地域における教会の発展を回顧するようになりました。ある特別な経験を通して、福音の中で自分が受け継いできたものにさらに感謝するようになったのです。

当時からさらにさかのぼること40年、コルドバでは最初の支部が初めて分割しました。その分割によってもう一つの支部(現在のピラベルグラノワード)がコルドバ市西部に組織されます。その支部から、後に多くのユニットが創設されたのです。

新しい支部が組織される度に、ピラベルグラノワードは、柔らかい若枝に養分を送る太い幹のような役割を果たしました。ピラベルグラノワードの指導者や会員だった人々の一部が新しい支部の会員となり、説教壇やいす、机、聖餐のトレーなど、提供できるものは何でも提供したのです。新しい支部が十分に整うと、こうした余剰備品はまた別の新しい支部に送られました。そのような方法で家具やほかの備品が様々な地域に分散し、有効利用されていきました。

あの小さかったピラアリエンデ支部も、今では美しい集会所と若い優秀な監督を

御存じでしたか？

主のライオン

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)は「主のライオン」と呼ばれましたが、実は驚くほど謙遜な人物



でした。あるとき、ブリガム・ヤングは預言者ジョセフ・スミスからひどくたしなめられたことがあります。ジョセフの叱責が終わると、部屋にいた全員がブリガムの反応を見守りました。ブリガムは弁解したり、腹を立てたりすることもできませんでした。しかし、真心をもって一言こう答えたのです。「ジョセフ、どうすべきなのか教えてください。」

後にヤング大管長はこう述べました。「へりくだって、思いにおいて幼子のようにならなければなりません。言い換えれば心が謙遜で子どものようではなければなりません。そうすれば成長し、知識、知恵、理解を深める特権を得ることができるのです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』197)



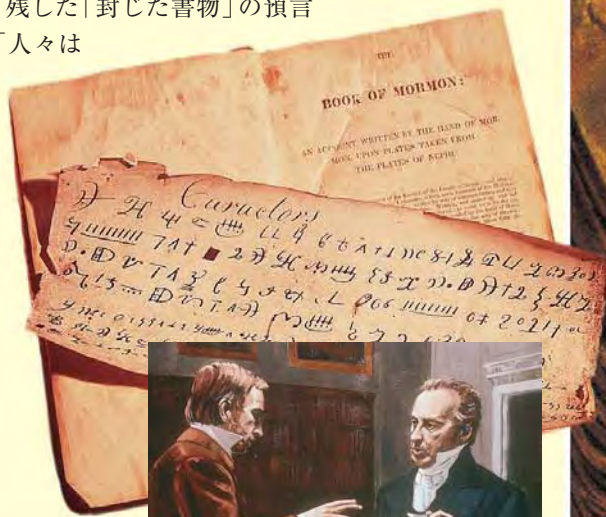
それは2月の出来事でした

1828年2月、マーティン・ハリスは金版から写し取った文字とその翻訳を持って、ニューヨーク市にあるコロンビア大学のチャールズ・アンソン教授のところへ行きました。マーティン・ハリスの言葉によると、アンソン教授

は、この文字は「エジプト語、カルデア語、アッシリア語、およびアラビア語であると言った。また、それらはほんとうの文字であると言った。そして、それらがほんとうの文字であること……を……証明する証明書をわたしにくれた。そこで、わたしはその証明書を取ってポケットに入れ、まさにその家を去ろうとしたとき、アンソン氏はわたしを呼び返して、どうしてその青年は金版を見つけた場所にその金版のあることが分かったのかと尋ねた。そこでわたしは、神の天使が彼にそれを明らかにしたと答えた。

すると彼は、『その証明書を見せてください』とわたしに言った。それでわたしがポケットからそれを取り出して彼に渡すと、彼はそれを取って細かく破って、今どき天使の働きのようなものなどないと言い、また、その版を持って来れば翻訳してあげようと言った。そこでわたしは、版の一部は封じられており、持って来ることを禁じられていると告げた。すると彼は、『わたしは封じられた書を読むことはできない』と答えた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:64-65)

アンソン教授はイザヤが書き残した「封じた書物」の預言を成就することになりました。「人々は〔封じた書物〕を読むことのできる者にわたして、『これを読んでください』と言えば、『これは封じてあるから読むことができない』と彼は言う。」(イザヤ29:11)



指導者へのヒント

召しを最も効果的に果たすことができるのは、指導者の助言に耳を傾けるときです。主はこうおっしゃっています。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助ける

ことはできない。」(教義と聖約12:8)

使徒ペテロもこう助言しています。「また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」(1ペテロ5:5) ■



『リアホナ』 2003年2月号の 活用法

レッスンのためのアイデア

●「内なる自己を強くする」2ページ——ジェームズ・E・ファウスト副管長は、すべてのものが霊にかかわると教えています。自分の一や知恵の言葉、また安息日きよを聖く保つなどの戒めについて話し合ってください。これらの戒めに従うことによって、どのように霊的に強められるか話し合ってください。

●「誕生日の神殿旅行」8ページ——自分がしたいことと、天の御父が自分に望まれていることが違って、どちらを選択すべきか悩んだことはありますか。善いことと、より善いこととの間で悩んだことはないですか。それはいつのことでしたか。どちらを選びましたか。その選択の結果、どのような気持ちになりましたか。

●「神の愛」12ページ——ラッセル・M・ネルソン長老は、わたしたちがある条件を満たすなら、神の愛と祝福を豊かに受けることができると教えています。日々の生活であふれるほどの主の愛と祝福にあずかるために、わたしたちには何ができるでしょうか。

●「ゆるしの小石」F6ページ——家族またはクラスの人たちに、靴の中に小石が入っているか尋ねてください。適切であれば、赦しに関するあなたの経験を紹介してください。特に、人を赦したことでどれほどすばらしい気持ちになりましたか話してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは『フレンド』の略

愛	12
イエス・キリスト	26, 30, F11, F14, F16
教え	30, 48
改宗	34, 42
回復	F2, F4
家庭関係	42, F6, F10
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
教会歴史	47, F4, F6
悔い改め	12, 26
使徒	42
指導性	47, 48
従順	12, 22
祝福	12
純潔	22
初等協会	F4
信仰	8, F16
信仰箇条	F4
神殿と神殿活動	8, F9
新約聖書	26, 30, F11, F14
スミス, ジョセフ	F4, F6
聖餐 <small>せいさん</small>	42, F11
聖霊	2, F10
選択の自由	33
備え	25
たとえ	30, 36
伝道活動	18, 30, F2
平安	2, 26
奉仕	18, 42, F10
ホームティーチング	7
模範	18
モルモン書	34, 47
友情	22, F2
優先順位	25
赦し	26, F6
霊性	2, 33

あなたの知識を試してみましょう

以下はどれも救い主のたとえに出てきます。どれとどれと一緒に登場するでしょう。

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 麦 | a. 皮袋 (マタイ9:17参照) |
| 2. 雨 | b. 砂 (マタイ7:24-27参照) |
| 3. ぶどう酒 | c. 毒麦 (マタイ13:24-30参照) |
| 4. 種 <small>ほうとう</small> | d. ラザロ (ルカ16:19-31参照) |
| 5. 放蕩息子 | e. いばら (マタイ13:3-8参照) |
| 6. 金持ち | f. 肥えた子牛 (ルカ15:11-32参照) |





「恐れてはならない」グレッグ・オルセン画

フロリダ州ベニス、ミル・ボンド・プレス社「ビジョンズ・オブ・フェイス(VISIONS OF FAITH)」コレクションから。

「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア1:9)



「わたしたちの思いと行動の中に内なる
霊的な平安と強さが現れますように。
神にはすべてのことが可能であるとい
う絶対的な信仰を、わたしたちが持てますように。
また、わたしたちが従順であるときに神の聖なる
御霊^{みたま}によって万事がわたしたちに明らかにされる
ということをいつも覚えていられますように。」副管
長 ジェームズ・E・ファウスト「内なる自己を強くする」
2ページ参照

